

基礎 分野					令和7年度
授業科目名	論理学				
講師名	山根 輝夫			実務経験	—
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期
学習目的	物事を論理的に施行し、客観的に評価できるものの見方・考え方・表現力を養う。				
到達目標	課題レポートや論文作成のための文章構成方法を身につける。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	倫理的な思考: 3つのレポートの比較検討、レポートの基本的な決まり				講義
2	論証の6要素: 主張を論理的に書くための構成要素 起承転結: 伝えたいことのストーリー化				講義
3	改善が必要な文章: 意味がはっきりしない文、話し言葉の文、ねじれ文				講義
4	構文技術①: 語順の原則				講義
5	構文技術②: 点の二大原則				講義
6	パラグラフライティング3原則: パラグラフライティング3原則とは パラグラフの書き方と盛り込む内容				講義
7	事実と意見: 区別の仕方、書き方、引用				講義
8	接続詞の有効な使い方			問題文の演習	講義
9	演習課題レポートの作成: 【テーマ】世界で問題視される『ネットいじめ』			演習レポート	講義
10	グループ討論: 課題レポートについて討議、自己評価、解決策の提案				講義・グループ
11	論理的な読解・要約法: 方法論、演習問題			演習問題	講義
12	クリティカルシンキング① 要約文の作成: 新聞記事の要約				講義
13	根拠・推論の評価			練習問題	講義
14	クリティカルシンキング②: ピラミッドストラクチャー				講義
15	テスト				
教科書	山根輝夫著: 『レトリックのすすめ』				
参考書・資料等	プリント・資料 (必要に応じて配布)				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点満点)				
関連科目					
学生へのメッセージ	文章を正しく読み解いて理解する力は、資料を読み解いたり、相手の言葉から真意をくみ取るなど、社会でも必要なスキルです。楽しく学ぼう。				

基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	情報literacy					
講師名	石川 麻理子			実務経験	—	
単位数	42.5	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	日常生活における情報の収集・処理する能力を身につける。 情報を統計的に処理する能力を習得し、コンピューターの機能と特性を理解して基本的操作能力を養う。 情報社会においてのモラルを身につける。					
到達目標	現場で活用できるパソコン実務					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	情報モラルとセキュリティ 医療従事における情報モラルとセキュリティ				講義	
2	情報モラルとWord① 知的財産権 文章作成1				講義	
3	情報モラルとWord② 文書作成 編集2				講義	
4	情報モラルとWord③ 表作成と図形				講義	
5	情報モラルと Windows 図形応用 地図作成				講義	
6	Excel 基礎 シート利用と基礎関数①				講義	
7	Excel 基礎関数②				講義	
8	Excel グラフ作成①				講義	
9	Excel グラフ作成②				講義	
10	Excel 確認テスト			確認テスト	講義	
11	パワーポイント 基礎 ～ 活用				講義	
12	テスト対策① Word、Excel確認				講義	
13	テスト対策② 基礎知識確認				講義	
14	テスト対策③ 基礎知識確認				講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 看護情報学 : 医学書院 基礎からはじまる情報リテラシー : 実教出版					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、技術演習、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点満点)					
関連科目						
学生へのメッセージ	実務で活用するパソコン操作を目標としています。パソコンの基礎から活用までを習得していきます。					

基礎 分野					令和7年度
授業科目名	生活科学				
講師名	久保 房子			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期
学習目的	人間生活の価値の多様性を学び、人間らしい豊かな生活が送れるように基礎的な知識を習得する。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	生活科学 日本の環境と生活 導入:なぜ学ぶのか ガイダンス 序章 1章 環境が生活に与える影響				講義
2	生活科学 日本の環境と生活 四季による影響 水害について				講義 グループワーク
3	生活科学 日本の環境と生活 四季による影響 水害について				講義 グループワーク
4	発表用資料作成				講義 グループワーク
5	発表会 質疑応答				発表会 (各グループ毎)
6	災害 環境破壊				講義 グループワーク
7	環境汚染について①				講義 グループワーク
8	環境汚染について②				講義 グループワーク
9	まとめ				講義
10	発表会 質疑応答				発表会 (各グループ毎)
11	生活環境 住まいと住環境				講義
12	療養をするのに良い環境、悪い環境①				講義 グループワーク
13	療養をするのに良い環境、悪い環境②				講義 グループワーク
14	発表会 質疑応答				発表会 (各グループ毎)
15	テスト				
教科書	生活科学 :オーム社				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)				
関連科目					
学生への メッセージ					

基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	未来教育学					
講師名	村井 輝久			実務経験	大学講師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	人間の成長発達における教育の果たす役割について、基本的な理解を培う。 教育における文化(教材)、集団との関りについて理解を深め、自己教育力を高めることができるようにする。					
到達目標	・社会における教育の意義と機能、また課題を説明することができる。 ・看護と教育の関係について説明することができる。					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	オリエンテーション 授業の概要、評価の方法、教育学を学ぶ理由			パソコン、スライド	講義	
2	日本ではどのような子育てが行われてきたか？ 産育・子育て習俗、通過儀礼、若者組とそれを支えた社会状況			パソコン、スライド	講義	
3	教育とは何か？ 教育の理念、近代教育			パソコン、スライド	講義	
4	学校とは何か？ 社会の複雑化、近代学校の誕生			パソコン、スライド	講義	
5	学校は、子どもたちを学習へと動機づけることができるか？ 学校-企業の神話、社会変動、終わりなき日常			パソコン、スライド	講義	
6	学びとは何か？ 学びの特質、自己と他者の関係性			パソコン、スライド	講義	
7	院内学級の意義と課題は何か？ 特別支援教育、ケア、看護と教育の連携およびその課題			パソコン、スライド	講義	
8	「障害」は「個性」か？ 障害個性論、個人モデル、社会モデル			パソコン、スライド	講義	
9	自律とは何か？ 近代的個人、自律と依存			パソコン、スライド	講義	
10	ChatGPT を活用するときの注意点は何か？ 人工知能、生成AI、生成された文章の特徴			パソコン、スライド	講義	
11	人間と人工知能はどこまで同じか？ 人間と人工知能のそれぞれの学習の特徴			パソコン、スライド	講義	
12	人間の拡張はどこまで許されるのか？ 人間拡張の種類、優生学、新しい優生学			パソコン、スライド	講義	
13	「大人になる」とはどういうことか？ 近代以前と近代以降の社会、一人前、半人前			パソコン、スライド	講義	
14	専門職に求められるものは何か？ 専門性、専門職性、省察			パソコン、スライド	講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 基礎分野 教育学 :医学書院					
参考書・資料等	講義では、教科書以外にも講義資料を配付します。					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)					
関連科目						
学生へのメッセージ	学問は、「問うこと」から始まります。皆さんには、この授業を通して、多くのことを問い、考えていただきたいと思います。					

基礎 分野				令和7年度	
授業科目名	レクリエーション論				
講師名	森川 澄子			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期
学習目的	心の動きと身体の動きとの相関について基本を理解する。 健全な心身の向上を図るために、個人や集団に対しての支援の方法を学ぶ。				
到達目標	人はどのような時に楽しさを感じるのか、その楽しさがどのように心を元気にして、気持ちや行動に変化をおこすのかなど、人々の心の元気づくりを支える方法や技術を習得する。 (レクリエーションという言葉の主旨を「心の元気にすること」と定義)				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	レクリエーションとは				講義・実技
2	レクリエーションの基本的な理解 楽しさと元気づくりの理論、アイスブレイキングとは				講義・実技
3	コミュニケーションワーク① ホスピタリティとは(信頼づくりの方法・関りのコミュニケーションワーク)				講義・実技
4	コミュニケーションワーク② ホスピタリティの示し方(気持ちをひとつにするコミュニケーション)				講義・実技
5	レクリエーション種目の実際① 障害者スポーツとは				講義・実技
6	レクリエーション種目の実際② 創作・クラフト 作って遊ぶ				講義・実技
7	レクリエーション種目の実際③ 様々な遊び体験				講義・実技
8	レクリエーション種目の実際④ 様々な遊び体験				講義・実技
9	余暇生活設計 ライフスタイルとレクリエーション 余暇生活 幼児期の余暇他				講義・実技
10	福祉レクリエーションとは 福祉現場でのレクリエーション セラピューテック・レクリエーション				講義・実技
11	目的に合わせたレクワーク 自主的、主体的に楽しむ力を育むレク活動展開 レクリエーションのアレンジ				講義・実技
12	レク活動の実際① スポーツ・レクリエーション ポッチャ ラダーゲッター サークルビンゴ 他				講義・実技
13	レク活動の実際② スポーツ・レクリエーション ポッチャ ラダーゲッター サークルビンゴ 他				講義・実技
14	レクリエーションの意義と目的、必要性 まとめ 福祉レクリエーションについて				講義・実技
15	テスト				
教科書	なし				
参考書・資料等	必要に応じてプリント配布				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)				
関連科目					
学生へのメッセージ	人との関わりに欠かせないコミュニケーションスキルを高めるために、様々な活動をとおして、理解を深めてください。				

基礎 分野				令和 7 年度	
授業科目名	人間関係論				
講師名	森 千住子			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期
学習目的	医療に携わるものとしての資質の向上を目指す。 家庭、学校、社会に展開される人間関係を主題とし、人間としての生き方を考慮し、主として看護に関連している問題を広く考察する。				
到達目標	・カウンセリングを活かしたコミュニケーションの意義について学ぶ。 ・「看護ふれあい学」を通して現場で活かせるコミュニケーションの意義を理解し、実践につなげる。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	心理学と臨床心理学の成り立ち(カウンセリングの歴史・理論)			パワーポイント	講義
2	健康・医療心理学(知識インプット)			パワーポイント	講義
3	心の健康・ストレスとコーピング			パワーポイント・小テスト	講義・演習
4	人間関係基礎・より良い人間関係の構築(他者との信頼関係の形成)			パワーポイント	講義
5	看護におけるコミュニケーションの目標 (人間関係を築くための基礎的なコミュニケーションスキル)			パワーポイント	演習
6	行動理論・問題所有の原則(患者の問題・サインをキャッチする)			パワーポイント	講義・演習
7	人間関係はカウンセリングの本質である (他者理解・自己理解・援助的コミュニケーションスキル)傾聴技法			パワーポイント	講義・演習
8	コミュニケーションを阻む対応パターン(12 の障害)について				講義・演習
9	率直な自己表現(自己開示)アサーションについて				講義・演習
10	問題なし領域で患者に送る(わたしメッセージ)・(環境改善)				講義・演習
11	相手の権利や欲求を侵害せず、自分の感情・欲求・考えを表明する(欲求の対立)				講義・演習
12	アサーティブな問題解決法(能動的な聞き方の切り替えの重要性)				講義・演習
13	問題解決の場面でアサーティブに、価値観の対立をどう解決するか				講義・演習
14	死と向き合う患者への対応				講義
15	テスト				
教科書	看護に活かすカウンセリング :ナカニシヤ出版 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 :医学書院 具体例で学ぶコミュニケーション訓練看護ふれあい講座 :照林社				
参考書・資料等	必要に応じてプリント配布				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ	授業中に行う実習の成果(ミニレポート・実習提出指示)				

基礎 分野				令和7年度	
授業科目名	発達心理学				
講師名	梅津 直子			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期
学習目的	人の各発達段階における心理的特徴と課題について学ぶ。 各発達段階や課題の行動様式の差について理解する。 発達の諸側面に及ぼす生物学的・心理的社会的要因について理解する。 心理学的知見を看護場面に応用する方法を学ぶ。				
到達目標	人間の発達について基礎的な知識を身につけて、その人の心や体に寄り添った看護にあたれるようになること。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	オリエンテーション 発達の基礎理論 発達心理学とは 発達段階、発達課題、遺伝と環境			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
2	胎児期の発達と新生児期の発達 胎児期の特徴と発達リスク、胎児の運動、知覚の発達、生理的早産、新生児の運動と知覚発達			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
3	乳児期の発達① ベビーシュマと生理的微笑、乳児期の身体発達、発達の原理、乳児の認知発達(感覚運動期)、乳児期の近く発達、言語発達			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
4	乳児期の発達② 乳児期の社会性の発達、愛着理論とその発達、形成要因、乳児期のコミュニケーションの発達			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
5	幼児期の発達① 幼児期の身体・運動機能の発達、幼児期の認知の特徴、心の理論とその発達プロセス			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
6	幼児期の発達② 幼児期の言語発達、自己の発達(自己認識の発達、自我の芽生えと反抗期、自己主張と自己抑制)、遊びの発達と意義			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
7	児童期の発達① 児童期の身体発達、認知の発達、言語の発達、発達と教育のかかわり			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
8	児童期の発達② 児童期の仲間関係の発達、学校への行こうと適応、道徳性、社会性の発達			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
9	児童期の発達③ 自己概念の変化と自己評価、児童期の学習意欲、発達障害、児童期の発達課題			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
10	青年期の発達① 青年期のはじまりと終わり 青年期の身体変化 第二次性徴とそれがおよぼす心理的影響、性役割、アイデンティティ			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
11	青年期の発達② アイデンティティ・ステータス、青年期の友人関係の発達とその意義 青年期の親子関係と心理的離乳			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
12	成人期の発達① 成人期とは 成人期の発達課題とライフイベント(親密性と結、世代性と出産育児) 育児ストレスと育児不安、児童虐待			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
13	成人期の発達② キャリアの発達、仕事と家庭の両立、成人期における自殺の問題、 中年期危機とアイデンティティ危機			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
14	老年期の発達 老年期とは 老年期の身体変化、老年期の認知機能の変化と認知症、知覚変化 心理・社会的な変化と発達課題			課題：ワーク提出 プロジェクター使用	講義
15	テスト				
教科書	なし				
参考書・資料等	必要に応じてプリント配布				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)				
関連科目					
学生へのメッセージ	発達心理学は、皆さんの身近な出来事や課題にも応用できる学問です。授業で学んだことを自分自身や周囲に照らして学びを深めてください。				

基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	文化人類学					
講師名	清水大地			実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	人間とは何か、人間にとって世界とは何かを理解し、人々と共に生きる意義を理解することができる。 文化によって培われた人と人とのつながりを広い視野を持って学習することができる。 学問的見地から信仰や世界観を養い、自己を取り巻く環境を認識することができる。					
到達目標	文化人類学的な考え方やものの見方を通じて、自文化の「当たり前」を疑い、異文化の「当たり前」を理解する姿勢を身につけること。					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	文化人類学とは何か 文化人類学的なものの見方を理解する 文化相対主義について理解する				講義	
2	フィールドワークと民族誌 フィールドワークの方法論について理解する 民族誌と文化の表象に関する問題を理解する				講義	
3	文化の表象に関する問題について理解する				講義 映像①	
4	文化の表象に関する問題についてグループワークを通じて話し合う				講義 グループワーク①	
5	家族と生殖① 文化的に構築された性差について考える 家族や親子関係の多性性について考える				講義	
6	家族と生殖② 生殖医療の発達が親子関係に与える問題について文化人類学的視点から理解する				講義	
7	『生と死』について考える				講義 映像②	
8	『いのち』をコントロールすることについて我々の社会との比較を通じて議論する				講義 グループワーク②	
9	医療人類学 医療人類学における『病気』や『医療』に関する考え方を理解する				講義	
10	医療人類学における病気の捉え方を基に具体的な病気について考察する				講義 グループワーク③	
11	儀礼の分類 身の回りにある儀礼について人類学的視点から理解する 分類的思考についての理解を深める				講義	
12	死 人間の死の問題について文化人類学的視点から考える				講義	
13	宗教の多様性 宗教の多様性について、文化人類学的な視点から理解する				講義	
14	文化人類学の発想とは これまでの講義で特に重要なトピックを復習し、文化人類学の発想とは何かを総括する				講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 :医学書院					
参考書・資料等	必要に応じてプリント配布					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ	講義では毎回コメントシートを記入してもらいます。考えながら書く、書きながら考えることを訓練していきましょう。					

基礎 分野					令和 7 年度	
授業科目名	英語 I					
講師名	ゾルナー・スコット			実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	日常英会話の基礎を学び、看護の場における簡単な英会話の方法を学ぶ。 医療分野における総合的な英語力を身につける。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	授業の説明 医学英語 身体の部分①				講義	
2	医学英語 身体の部分②				講義	
3	医学英語 身体の部分③				講義	
4	医学英語 身体の部分④				講義	
5	医学英語 身体の部分⑤				講義	
6	医学英語 身体の部分⑥				講義	
7	医学英語 身体の部分⑦				講義	
8	医学英語 身体の部分⑧				講義	
教科書	クリスティーンのやさしい看護英会話 : 医学書院					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生への メッセージ						

基礎 分野					令和 7 年度	
授業科目名		英語Ⅱ				
講師名		大谷 純子			実務経験	講師
単位数		1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度		2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期
学習目的		日常英会話の基礎を学び、看護の場における簡単な英会話の方法を学ぶ。				
到達目標		外国人患者に基本的な質問をすることができる。 また、簡単な質問に答えることができる。				
回数	日数	学習スケジュール			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	1	オリエンテーション 英語学習の取り組み方と内容、授業の注意点、自己紹介			発表	講義
2	2	発音の基礎 子音、母音の音の出し方(口の形・舌の位置・息の出し方等) 【合同授業】				講義
3		数字(序数)・月・曜日 年(西暦)の言い方 【合同授業】			提出課題	講義
4	3	基本の文法① 現在形、過去形、未来形 【合同授業】				講義
5		基本の文法② 品詞・単語(複数)・冠詞等 【合同授業】			提出課題	講義
6	4	Unit 1(基本的な意思表示)Unit 2(仕事、家族、趣味など)			発表	講義
7	5	Unit 3(丁寧な表現) Unit4(初診の患者)			発表	講義
8	6	Unit 1 ～ Unit 4 復習後テスト			小テスト	講義
9	7	Unit 5(道順を教える - 診療科名)			提出課題	講義
10	8	Unit 6 症状① 人体外部			発表	講義
11	9	Unit 7 症状②			発表	講義
12	10	Unit 6, 7 復習後テスト			小テスト	講義
13	11	Unit 8 病歴			発表	講義
14	12	これまでの復習			小テスト	講義
15	13	映画を見て内容についての質問に答える 【合同授業】			課題提出	講義 映像鑑賞
教科書		クリスティーンのやさしい看護英会話 : 医学書院				
参考書・資料等						
評価指標		出席状況、課題提出、授業への積極的参加・発表、試験				
関連科目						
学生へのメッセージ		Believe in yourself and don't give up.				

基礎 分野					令和 7 年度	
授業科目名		国際医療コミュニケーション I				
講師名		大谷 純子		実務経験	講師	
単位数		1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度		2025 年度	学年	2 年次	履修期	通年
学習目的		看護師として必要な英会話の基礎を学ぶ。 医療分野における総合的な英会話を身につける。				
到達目標		外国人患者に基本的な医療英語を使い質問や指示をすることができる。 また、外国人患者の簡単な質問に答えることができる。				
回数	日数	学習スケジュール			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	1	Review - 復習				講義・演習
2		Grammar - 文法 注)同日続きのクラスで 1, 2 回目の授業			課題提出	講義・演習
3	2	Chapter 1 Welcoming a patient			パソコン使用	講義・演習
4	3	Chapter 2 Talking Vital Signs			パソコン使用	講義・演習
5	4	Review Test No.1			小テスト①	講義・演習
6	5	Chapter 3 Pain Assessment			パソコン使用	講義・演習
7	6	Chapter 4 Feeling So sick !			パソコン使用	講義・演習
8	7	Review Test No.2			小テスト②	講義・演習
9	8	Chapter 5 Transferring a Patient			パソコン使用	講義・演習
10	9	Chapter 6 Medical Department			パソコン使用	講義・演習
11	10	Review Test No.3			小テスト③	講義・演習
12	11	Chapter 8 Personal Care			パソコン使用	講義・演習
13	12	Chapter 9 Giving Medication to a Patient			パソコン使用	講義・演習
14	13	Review Test No.4			小テスト④	講義・演習
15	14	Enjoy a movie! - 映画を楽しむ			パソコン使用 課題提出	講義・演習
教科書		Talking with your patients in English				
参考書・資料等						
評価指標		出席状況、課題提出状況 授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目						
学生へのメッセージ		Focus on the class ! Your time is limited.				

基礎 分野					令和 7 年度
授業科目名	国際医療コミュニケーションⅡ				
講師名	ゾルナー・スコット			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	3 年次	履修期	後期
学習目的	看護師として必要な英会話の基礎を学ぶ。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	概要:看護師必須英語コミュニケーション (NEEC)				講義
2	基本的なフレーズ				講義
3	数字・単位・測定について				講義
4	時間				講義
5	体の部分				講義
6	病院得着と初期手続き				講義
7	健康診断・一般的な症状				講義
8	健康診断・一般的な症状				講義
教科書	クリスティーンのやさしい看護英会話 :医学書院				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					

基礎 分野					令和 7 年度
授業科目名	おもいラボ I ライフマネジメントプロジェクト				
講師名	鈴木 恵一			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期
学習目的	おもい・ねがいを実現するための思考を学ぶ 看護専門学校の 1 年生として生活における自立と自律、自分の生活マネージメント力を身につける				
到達目標	看護専門学校という新しい学びの場での学生生活の変化、新しい友人関係など大きく変化する中で、生活をスタートする看護学生 1 年生が、自律した学生生活を送れるようになるための自分たちの生活を改善する提案集を作る。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	準備: ライフポートフォリオの作成				
2	ビジョン・ゴールの決定				
3	計画: ゴール達成に必要な情報や作業、時間配分の計画				
4	情報・解決策: ゴールに向かうために有効な根拠に基づいた情報を得る				
5	制作①				
6	制作②				
7	再構築: 再構築の意図・方法・制限の説明				
8	成長確認				
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 : 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 : 医学書院				
参考書・資料等	根拠がわかる老年看護技術 : メヂカルフレンド社				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					

基礎 分野				令和 7 年度	
授業科目名	おもいラボⅡ				
講師名	中村 優里			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期
学習目的	看護学生1年生が、好きを看護に活かすことにより、誰もが活躍する場を作り、やる気・意欲を維持し目標に向かうことができる。 「好き」×看護がくらしと健康にどう役立つのかを考えられる。				
到達目標	【専門知】 ・多様な看護師の仕事に関する知識 ・なりたい看護になるために必要な学びや体験をイメージできる力 ・現実社会の医療、福祉の動向への関心を持てるようになる 【普遍知】 ・ビジョンを描く力 ・自分の好きを考え意識する力 ・社会の最新情報を獲得する力 ・インタビュー力 ・ビジョンに向かい、より成長しようとする意欲				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	準備:ビジョンとゴール ・概要の説明 ・チーム編成			アクションシート1	講義 グループワーク
2	計画 ・チーム編成 ・チーム工程表 ・「好き」×看護とは			アクションシート2	講義 グループワーク
3	情報リサーチ ・「好き」と健康 ・「好き」×くらし			アクションシート3	講義 グループワーク
4	情報リサーチ ・「好き」弟子入り			アクションシート4・工程表	講義 グループワーク
5	情報と解決策 ・「好き」と看護がどのような場面でくらしと健康に役立つのか			企画書	講義 グループワーク
6	制作 ・今自分たちにできること			思考プロセスパネル	講義 グループワーク
7	制作 ・プレゼンテーション準備			思考プロセスパネル	講義 グループワーク
8	プレゼンテーション			思考プロセスパネル	講義 グループワーク
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 1 看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ :医学書院 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 :医学書院 よくわかる看護職の倫理綱領 :照林社 看護に活かすカウンセリング :ナカニシヤ出版 具体例で学ぶコミュニケーション訓練看護ふれあい講座 :照林社 生活科学 :オーム社 他				
参考書・資料等	Google クラスルーム 「好き」のプロフェッショナルとして働く人(インタビューの対象として) Google マップ・アースによる関連施設の検索 Google scaiar				
評価指標	出席状況・学習態度・実践評価・提出物				
関連科目	看護学概論Ⅰ・Ⅱ、生活科学、人間関係論 他				
学生へのメッセージ	「なりたい自分」「なりたい看護師」になるために、各自の「好き」というおもしろいを大切にする、楽しい授業です！ 好きを極めて、好きを力に！！「なりたい自分」に成長していく自分自身を感じよう。 そして、フィールドワーク(弟子入り)を通して描いたキャリアデザインを表現してみましょう。スキ ♡ を極める！めいっぱい楽しみましょう！				

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	形態機能学Ⅰ 講義、解剖見学					
講師名	加藤 一夫			実務経験		
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	人体を構成する各部の構造と機能を理解し、人体の活動にどのような意識をもつのかを学ぶ。 人体発生の概略・遺伝・老化を学習し、人間を統合して考えられる。 解剖学教室を見学することで机上の学習と人体の構造の実際を統合することができる。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	解剖学総論 解剖学とは、生理学とは				講義	
2	体表解剖学Ⅰ 体表から触れる骨、筋等				講義	
3	体表解剖学Ⅱ 体表から触れる筋、脈管等				講義	
4	解剖学総論 体腔、身体の区分、体表からみた各部の器官、基準面等				講義	
5	解剖学総論 細胞内小器官、エネルギー発生、細胞分裂、DNA、タンパク合成、組織				講義	
6	解剖学総論 支持組織、上皮、結合組織、筋、骨、器官系概論				講義	
7	解剖学総論 器官系(消化、呼吸、泌尿、循環等)				講義	
8	解剖学総論 血液、赤血球の代謝等				講義	
9	解剖学総論 循環、骨格、骨格筋等				講義	
10	解剖学総論 神経系、防御系、生殖系、概略				講義	
11	解剖学総論 生殖系、発生、解剖見学講義Ⅰ				講義	
12	解剖学総論 解剖見学講義Ⅱ				講義	
13	解剖学総論 解剖見学講義Ⅲ				講義	
14	解剖学総論 解剖見学講義Ⅳ				講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 人体の構造と機能1 解剖生理 :医学書院					
参考書・資料等	解剖生理学ワークブック :医学書院 形態機能学 :日本看護協会 メディカルインデックス :TECOM出版 ナースが視る人体 :講談社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)					
関連科目						
学生へのメッセージ	体の仕組みを理解し、健康な日常生活が送れるよう一緒に学んでいきましょう。					

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	形態機能学Ⅱ 消化器系、呼吸器系、血液・造血器系					
講師名	WAGON 講師			実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	食物を摂取し消化・吸収・排泄する仕組みを科学的に理解する 呼吸器系の構造・呼吸のプロセス・呼吸の調節について科学的に理解する。 造血・血液の仕組みについて科学的に理解する。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	消化器(口腔・食堂)、胃				講義	
2	十二指腸、空腸				講義	
3	小腸、大腸、肝臓				講義	
4	膵臓、胆のう、直腸				講義	
5	消化器			小テスト	講義	
6	呼吸器(上気道、下気道、肺胞)				講義	
7	呼吸器(筋肉、圧、呼吸調整)				講義	
8	呼吸器(ガス交換、酸素乖離曲線)				講義	
9	呼吸器(スパイロメトリー、呼吸音)				講義	
10	呼吸器(酸塩基、異常呼吸)			小テスト	講義	
11	血液(血漿成分)				講義	
12	血液(白血球)				講義	
13	血液(赤血球、血液型)				講義	
14	血液(血小板、止血について)			小テスト	講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 人体の構造と機能1 解剖生理 :医学書院 系統看護学講座 消化器 呼吸器 血液・造血器 :医学書院					
参考書・資料等	解剖生理学ワークブック :医学書院 形態機能学 :日本看護協会 ナースが視る人体 :講談社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名		形態機能学Ⅲ 循環器、骨・筋系、腎泌尿器系、女性生殖器				
講師名		WAGON 講師			実務経験	講師
単位数		1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度		2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期
学習目的		心臓や血管などの血行路、リンパ流路を科学的に理解する。 体を支え、動かす仕組みを科学的に理解する。 尿を作る仕組みを科学的に理解する 子孫を残す仕組みについて科学的に理解する。				
到達目標						
学習スケジュール					課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	循環器 心臓のつくり、弁の名前					講義
2	循環器 血液の流れ					講義
3	循環器 心臓、弁の動き					講義
4	循環器 全身の血管名					講義
5	循環器 心電図、リンパの流れ					講義
6	循環器 心筋(特殊・固有)					講義
7	循環器のまとめ					講義
8	骨格系 骨の構造と機能、名称					講義
9	骨格系 筋肉の構造と機能、名称					講義
10	腎・泌尿器系 腎臓の構造、名称					講義
11	腎・泌尿器系 尿生成のしくみ 活					講義
12	腎・泌尿器系 レニン、アンギオテンシン、アルドステロン系					講義
13	男性生殖器 構造と機能					講義
14	女性生殖器 性周期とホルモン 妊娠の仕組み					講義
15	テスト					
教科書		系統看護学講座 人体の構造と機能1 解剖生理 :医学書院 系統看護学講座 循環器 運動器 腎・泌尿器 女性生殖器 :医学書院				
参考書・資料等		解剖生理学ワークブック :医学書院 形態機能学 :日本看護協会 ナースが視る人体 :講談社 メディカルインデックス :テコム社				
評価指標		出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	形態機能学Ⅳ 脳神経系、感覚器(眼、耳鼻咽喉、皮膚)、内分泌					
講師名	金井 信行			実務経験	医師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	通年	
学習目的	器官系統別に人体を動かす仕組みや機能を理解する。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	脳神経系	1)神経の構成 2)ニューロンのはたらき			講義	
2		3)伝導路、脳の役割と構造、機能①			講義	
3		伝導路、脳の役割と構造、機能②			講義	
4		伝導路、脳の役割と構造、機能③			講義	
5		伝導路、脳の役割と構造、機能④			講義	
6	感覚器(眼、耳鼻咽喉、皮膚)	眼、耳鼻咽喉、皮膚の解剖生理 身近な病気(風邪、咽頭炎、結膜炎、水痘)			講義	
7		皮膚の組織 上皮、腫瘍、皮疹			講義	
8		眼、耳鼻咽喉、の解剖			講義	
9		皮膚、水痘、HSV、風疹、麻疹、眼病、糖尿病			講義	
10		音光物理 聴力障害、めまい 視力検査、近視、老視、LASIK			講義	
11		眼、耳鼻咽喉、皮膚 国試問題①			講義	
12		眼、耳鼻咽喉、皮膚 国試問題②			講義	
13	内分泌	組織・機能・役割①			講義	
14		組織・機能・役割②			講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 人体の構造と機能1 解剖生理 :医学書院 系統看護学講座 脳神経 眼 耳鼻咽喉 皮膚 内分泌 :医学書院					
参考書・資料等	解剖生理学ワークブック :医学書院 メディカルインデックス :テコム出版 ナースが視る人体 :講談社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ	構造、機能、疾患、看護を結びつけて考える土台を作ろう。					

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	栄養学					
講師名	後藤 一美			実務経験	管理栄養士	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	生命の維持、成長、機能の維持エネルギー生産に必要な栄養素とその適正量を理解する。 人間にとっての「食」、「栄養」の意義を理解する。 病態に応じた食事療法と疾病の予防のための食事を理解する。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	人間栄養学と看護 栄養の意味、栄養素と人の栄養状態の関係、保健医療における栄養学				講義	
2	栄養素の種類と働き 糖質、脂質				講義	
3	栄養素の種類と働き タンパク質、ビタミン				講義	
4	栄養素の種類と働き ビタミン、ミネラル				講義	
5	栄養素の種類と働き ミネラル、食物繊維、水				講義	
6	食物の消化と栄養素の吸収・代謝 食物の消化 ～栄養素の吸収				講義	
7	食物の消化と栄養素の吸収・代謝 血漿成分と栄養素 ～吸収・代謝産物の排泄				講義	
8	エネルギー代謝 食品のエネルギー ～エネルギー消費 食事と食品 栄養アセスメントの方法 ～栄養状態の統合評価				講義・演習	
9	栄養ケア・マネジメント 栄養ケア・マネジメントとは ～栄養ケア・マネジメントの評価 栄養状態の評価・判定 栄養アセスメントの方法 ～栄養状態の総合評価				講義	
10	ライフステージと栄養 乳児期における栄養、成人期における栄養				講義	
11	ライフステージと栄養 妊娠期における栄養、高齢期における栄養				講義	
12	臨床栄養 チームで取り組む栄養管理 ～静脈栄養剤				講義	
13	臨床栄養 疾患・症状別食事療法、痩せ・低栄養患者の食事療法 ～がん患者の栄養・食事療法				講義	
14	健康づくりと食生活 食生活の変遷と栄養の問題 ～職の安全性と表示				講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 人体の構造と機能3 栄養学 :医学書院					
参考書・資料等	医・新食品成分表 FOOD 2021 :東京法令					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ	栄養学は、食べることの意味を知ることです。 一緒に考えていきましょう。					

専門基礎 分野					令和 7 年度	
授業科目名	感染症と微生物学					
講師名	久保川 利哉			実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	病原微生物学の基礎的知識を学ぶことにより、医療チームの一員として実際の看護を行う上で役立てる。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	微生物学とは (1)細菌学 総論 1				講義	
2	(2)細菌学 総論 2				講義	
3	(3)細菌学 各論 一般細菌				講義	
4	(4)真菌学 総論、各論 1				講義	
5	真菌学 総論、各論 2				講義	
6	(5)ウイルス学 総論 ～ウイルスとは、ウイルスの増殖の仕方				講義	
7	ウイルス学 各論 ～インフルエンザウイルス、寄生虫学、原虫 etc				講義	
8	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 4 微生物学 :医学書院					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	生化学					
講師名	半田 良廣			実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	生体における物質代謝や生体エネルギー生成の機構を理解する。 正常な状態の生理機能や病的状態を、分子レベルから理解する。					
到達目標	糖質、脂質、タンパク質の消化・吸収について説明できる。 生命活動における物質代謝および代謝調節について説明できる。 物質代謝と病気の関係について説明できる。					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	生化学の基礎 生化学とは、生命、細胞の構造			課題(章末のゼミナール)	講義	
2	代謝の基礎と酵素・補酵素 三大栄養素、酵素、補因子、酵素の反応速度、阻害			課題(章末のゼミナール)	講義	
3	糖質 単糖の構造と機能、二糖・多糖の構造と機能			課題(章末のゼミナール)	講義	
4	糖質代謝 糖質の消化と吸収、グルコースの分解、ペントースリン酸経路、糖新生			課題(章末のゼミナール)	講義	
5	脂質 脂質角構造と機能、種類			課題(章末のゼミナール)	講義	
6	脂質代謝 脂質の消化と吸収、脂肪酸の分解			課題(章末のゼミナール)	講義	
7	タンパク質 アミノ酸、タンパク質の構造			課題(章末のゼミナール)	講義	
8	タンパク質代謝 タンパク質の消化と吸収、アミノ酸の分解			課題(章末のゼミナール)	講義	
9	ポルフィリン代謝 ポルフィリン、生体異物代謝			課題(章末のゼミナール)	講義	
10	遺伝子と核酸 遺伝、染色体、核酸			課題(章末のゼミナール)	講義	
11	遺伝子の複製・修復・組み換え DNAの複製・修復・組み換え、遺伝子多型			課題(章末のゼミナール)	講義	
12	転写 転写の開始・伸長・終結、RNAのプロセシング、遺伝子の発現調節			課題(章末のゼミナール)	講義	
13	翻訳 翻訳のメカニズム、翻訳後修飾			課題(章末のゼミナール)	講義	
14	シグナル伝達 がんの性質			課題(章末のゼミナール)	講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 人体の構造と機能2 生化学 :医学書院					
参考書・資料等	高校時に使用した生物の教科書があるとよい					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)					
関連科目						
学生へのメッセージ	体内でおこっていることを物質レベルから理解するための基礎知識を学びます。 他の授業を学ぶ際に生化学と関連付けて学ぶことで、より深く理解できるようになります。					

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	疾病論Ⅰ 病理学概論、病態生理学、リハビリテーション療法					
講師名	①金井信行 ②理学療法士			実務経験	① 医師 ② 理学療法士	
単位数	2 単位	授業回数	23 回	時間数	45 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	通年	
学習目的	【病理学概論】・【リハビリ療法】 疾病、病変の原因や発生原理と人体の反応を学び、基礎的診断・治療を理解する。 【病態生理学】 疾病・病変の原因や発生原理と人体の反応を学び、人体のメカニズムを理解する。 リハビリテーションの特徴を理解し看護に活かす。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	病理学概論	病理学総論 病理学とは、疾病とは			講義	
2		変性、創傷治療(修復)、壊死			講義	
3		循環障害(血栓、栓塞など)			講義	
4		循環障害(側副循環、シック、高血圧、DICなど) 炎症と免疫反応			講義	
5		アレルギー、免疫不全、自己免疫、臓器移植など			講義	
6		細菌(病原微生物)、代謝障害			講義	
7		老化と死、先天異常			講義	
8		腫瘍			講義	
9	病態生理学	病態生理 炎症修復、壊死、循環障害、脳梗塞、心筋梗塞、肺血栓、塞栓症			講義	
10		急性肝不全、ショック、心不全、心筋梗塞、脳梗塞の合併症			講義	
11		炎症各論① 肺炎、急性虫垂炎、尿路系炎症			講義	
12		炎症各論② その他			講義	
13		いろいろながん① 消化器系、呼吸器系			講義	
14		いろいろながん② その他			講義	
15		まとめ			講義	
16	リハビリテーション療法	脳血管障害に対するリハビリテーション①			講義	
17		脳血管障害に対するリハビリテーション②			講義	
18		リハビリテーション看護			講義	
19		視覚・聴覚障害、下肢切断に対するリハビリテーション看護			講義	
20		呼吸機能障害、心不全についてのリハビリテーション看護			講義	
21		リハビリテーション実習① ADL 実習			演習	
22		リハビリテーション実習②			演習	
23	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進1 病理学 :医学書院 系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進2 病態生理学 :医学書院 系統看護学講座 専門基礎 別巻 リハビリテーション :医学書院					
参考書・資料等	メヂカルインデックス 第3版 :テコム出版 解剖生理ワークブック :医学書院 看護 形態機能学 :日本看護協会出版 ナースが視る病気 :講談社 ナースが視る人体 :講談社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、 筆記試験(病理学概論・病態生理学:70 点/リハビリテーション療法:30 点)					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	疾病論Ⅱ 消化器、内分泌					
講師名	WAGON 講師			実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期	
学習目的	各器官系統別に疾患の病態生理と症状・診断・予後を学ぶ。 【消化器】 消化・吸収の機能の障害を持つ対象のアセスメントができるように消化器の機能の障害について成り立ちを理解する。 主な疾患の病態、特有の症状、検査、治療法を学ぶ。 【内分泌】 内分泌・代謝機能障害を持つ対象のアセスメントができるようになるため、内分泌・代謝の機能障害について成り立ちを理解する。主な疾患の病態、特有の症状、検査、治療法を学ぶ。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	逆流性食道炎 概要、原因、治療、看護				講義	
2	食道がん 概要、原因、治療、看護				講義	
3	胃・十二指腸潰瘍 概要、原因、治療、看護			小テスト	講義	
4	胃がん 概要、原因、治療、看護				講義	
5	ダンピング症候群				講義	
6	消化器疾患 潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸疾患全般				講義	
7	消化器疾患 大腸がん、その他			小テスト	講義	
8	消化器疾患 便秘、腸閉塞(イレウス)				講義	
9	消化器疾患 肝炎、肝硬変、肝がん ①				講義	
10	消化器疾患 肝炎、肝硬変、肝がん ②				講義	
11	消化器疾患 膵炎、胆管炎、ERCP、黄疸			小テスト	講義	
12	内分泌疾患				講義	
13	内分泌疾患 甲状腺疾患、副甲状腺について				講義	
14	代謝疾患 糖尿病				講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 成人看護学5 消化器 :医学書院 系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝 :医学書院					
参考書・資料等	解剖生理ワークブック :医学書院 看護 形態機能学 :日本看護協会出版 ナースが視る病気 :講談社 ナースが視る人体 :講談社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	疾病論Ⅲ 呼吸器、アレルギー・膠原病					
講師名	① WAGON 講師		②金井 信行		実務経験	①講師 ②医師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期	
学習目的	各器官系統別に疾患の病態生理と症状・診断・予後を学ぶ。 【呼吸器】 呼吸の機能の障害を持つ対象のアセスメントが出来るように呼吸器の機能の障害の成り立ちを理解する。 主な疾患の病態特有の症状、検査、治療法を学ぶ。 【アレルギー・膠原病】 アレルギーの発生の機序、免疫機能を理解し、疾患の病態、症状、検査、治療法を学ぶ。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	呼吸器	呼吸器の構造と機能				講義
2		主要症状と検査				講義
3		COPD、気管支喘息				講義
4		呼吸器の構造と機能				講義
5		肺がん、喫煙 肺がんの診断と治療				講義
6		その他の肺疾患				講義
7		呼吸不全				講義
8	アレルギー・ 膠原病	概要、免疫、アレルギー、膠原病				講義
9		アナフィラキシー				講義
10		ステロイドの副作用				講義
11		血液型、免疫				講義
12		SLE、レイノー症状、強皮症				講義
13		慢性関節リウマチ				講義
14		川崎病～アナフィラキシー、アレルギー				講義
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器 :医学書院 系統看護学講座 成人看護学 11 アレルギー・膠原病 :医学書院					
参考書・資料等	解剖生理ワークブック :医学書院 看護 形態機能学 :日本看護協会出版 ナースが視る病気 :講談社 ナースが視る人体 :講談社 メディカルインデックス :テコム出版					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(呼吸器系:50 点/アレルギー・膠原病:50 点)					
関連科目						
学生への メッセージ	【呼吸器】 【アレルギー・膠原病】					

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	疾病論Ⅳ 循環器系、血液・造血器系					
講師名	WAGON 講師			実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期	
学習目的	【循環器系】 循環器系疾患の病態生理と症状・診断・予後を学ぶ。 【血液・造血器系】 循環器系疾患の病態生理と症状・診断・予後を学ぶ。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	循環器系	心電図			講義	
2		不整脈			講義	
3		狭心症			講義	
4		心筋梗塞			講義	
5		心不全①			講義	
6		心不全②			講義	
7		大動脈解離、高血圧			講義	
8		心タンポナーデ、弁膜症、心筋症			講義	
9	血液・造血器系	血液、生体防御			講義	
10		チアノーゼ、輸血、アレルギー			講義	
11		血液系疾患、白血病			講義	
12		ATL、DIC、ITP、血友病			講義	
13	循環器、血液・造血器 まとめ①				講義	
14	循環器、血液・造血器 まとめ②				講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 成人看護学3 循環器 :医学書院 系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器 :医学書院					
参考書・資料等	解剖生理ワークブック :医学書院 看護 形態機能学 :日本看護協会出版 ナースが視る病気 :講談社 ナースが視る人体 :講談社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名		疾病論Ⅴ 脳神経(内科)・脳神経(外科)・運動器系				
講師名		WAGON 講師			実務経験	講師
単位数		1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度		2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的		循環器系疾患の病態生理と症状・診断・予後を学ぶ。				
到達目標						
回数	内 容				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	脳の正常 脳神経伝導路、脳脊髄液の生成のしくみ					講義
2	外傷性 硬膜外出血、硬膜下出血					講義
3	神経伝達物質 交感Nと副交感Nの構造					講義
4	脳血管性疾患	くも膜下出血				講義
5		脳内出血				講義
6		脳梗塞				講義
7		高次脳障害、グリア細胞				講義
8	神経疾患	多発性硬化症 他まとめ				講義
9		パーキンソン病				講義
10		ALS				講義
11		ギランバレー症候群				講義
12	運動器疾患	重症筋無力症				講義
13		大腿骨頸部骨折				講義
14		脊髄損傷、椎間板ヘルニア				講義
15	テスト					
教科書		系統看護学講座 成人看護学7 脳・神経 :医学書院 系統看護学講座 成人看護学 10 運動期 :医学書院				
参考書・資料等		解剖生理ワークブック :医学書院 看護 形態機能学 :日本看護協会出版 ナースが視る病気 :講談社 ナースが視る人体 :講談社				
評価指標		出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	疾病論Ⅵ 耳鼻咽喉・眼科・皮膚、歯・口腔					
講師名	①金井 信行 ②中村 敦			実務経験	①②医師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期	
学習目的	各器官系統別に疾患の病態生理と症状・診断・予後を学ぶ。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	耳鼻咽喉・眼科・皮膚	皮膚の構造と機能 復習			講義	
2		疾患① 湿疹、蕁麻疹、真菌感染			講義	
3		疾患② ウイルス性疾患、腫瘍、その他			講義	
4		眼の構造と機能 復習			講義	
5		疾患① 屈折異常、結膜炎、角膜炎			講義	
6		疾患② 白内障、緑内障、網膜剥離			講義	
7		疾患③ 全身疾患と眼			講義	
8		耳鼻咽喉の構造と機能 復習			講義	
9		疾患① 難聴、嚙声、めまい、外耳・中耳疾患			講義	
10		疾患② 鼻腔咽頭疾患			講義	
11		疾患③ 咽頭疾患 その他			講義	
12	歯・口腔	歯・口腔について			講義	
13		疾患の理解と看護について			講義	
14		事例による看護過程の展開と口腔ケアについて			講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 成人看護学 14 耳鼻咽喉 : 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 13 眼 : 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 12 皮膚 : 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 15 歯・口腔 : 医学書院					
参考書・資料等	解剖生理ワークブック : 医学書院 看護 形態機能学 : 日本看護協会出版 ナースが視る病気 : 講談社 ナースが視る人体 : 講談社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(耳鼻咽喉・眼科・皮膚:80 点/歯・口腔:20 点)					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門基礎 分野

令和7年度

授業科目名	疾病論Ⅶ 腎・泌尿器、女性生殖器・乳房				
講師名	久保川 利哉			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	各器官系統別に疾患の病態生理と症状・診断・予後を学ぶ。				
到達目標	臨床の現場で役立つ実践的な知識を身につける。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	腎・泌尿器	症状と病態生理			講義
2		検査			講義
3		治療			講義
4		内科的疾患			講義
5		腎血管性疾患			講義
6		尿路の通過障害			講義
7		尿路性器の悪性腫瘍			講義
8	女性生殖器・乳房	B臓器別疾患、膣炎、D感染症			講義
9		子宮筋腫、子宮内膜症、C機能的疾患、更年期障害			講義
10		子宮頸がん、子宮体部がん			講義
11		絨毛性疾患(胎状奇胎・絨毛がん)			講義
12		乳がん			講義
13		不妊症			講義
14		その他			講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 成人看護学8 腎・泌尿器 :医学書院 系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器 :医学書院				
参考書・資料等	解剖生理ワークブック :医学書院				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門基礎 分野				令和7年度	
授業科目名	薬理学				
講師名	眞原 達男			実務経験	薬剤師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	薬理作用の基本を学び、取扱い方、与薬方法、管理を修得する。 代表的な薬物の作用、副作用、特徴を学ぶ。				
到達目標	薬の薬理作用を理解し、代表的な薬物の作用、副作用、相互作用などが想像できる能力を身につける。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	薬理学総論① 薬理学とは 薬力学 薬物動態学			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
2	薬理学総論② 相互作用 薬物使用の有益性と危険性			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
3	抗感染症薬 薬と法律 抗感染症薬			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
4	抗がん薬 合成化学療法薬、抗ウイルス薬、抗がん薬			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
5	免疫治療薬 免疫系の基礎知識、免疫抑制剤、抗アレルギー薬			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
6	末梢神経薬 末梢神経による情報伝達、交感神経・副交感神経作用薬			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
7	中枢神経薬① 中枢神経に作用する薬物 抗精神病薬、全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
8	中枢神経薬② 抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬、降圧薬、狭心症治療薬			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
9	循環器系に作用する薬物 抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬 血液凝固系に作用する薬物			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
10	呼吸器・消化器作用する薬物 気管支喘息治療薬、消化性胃潰瘍治療薬 女性生殖器に作用する薬物 泌尿器に作用する薬物			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
11	代謝に作用する薬物 糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬 皮膚に使用する薬物			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
12	救急の際に使用される薬物・漢方			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
13	消毒薬・輸液製剤・輸血剤			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
14	まとめ 薬理学演習問題			PC(パワーポイント)・ プリント等	講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進3 薬理学 :医学書院				
参考書・資料等	今日の治療薬 2025 年:南江堂 薬がみえる:MEDIC MEDIA				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100 点)				
関連科目	病理学・病態生理学が基本となります。				
学生への メッセージ	薬理学とは、「薬はどうやって効くの?」を学ぶ学問です。 臨床で良く使用する薬をもとに病態と薬理作用について学んでいきましょう。				

専門基礎 分野					令和7年度
授業科目名	看護師が視るからだと病気				
講師名	門馬 良明			実務経験	看護師
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	3 年次	履修期	前期
学習目的	看護師の観点から人体を系統だてて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力・判断力を養い、看護のための形態機能学・疾病論を生活行動につなげて考える。				
到達目標	1. 臨床看護師が行う臨床判断のプロセスが分かる。 2. 症状や疾患のメカニズムを理解し、その概要を説明する。 3. シナリオ事例を理解するために、臨床判断の思考過程をたどることができる。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	臨床の看護師が行う臨床判断のプロセス				講義
2	循環・水と電解質(循環に問題のある患者・水分出納管理が必要な患者)				講義
3	体温調整・感染(体温調整に問題のある患者・感染症)			事前レポート	講義・演習
4	呼吸、酸・塩基バランス(呼吸状態に問題のある患者・アシドーシス・アルカローシス)				講義
5	栄養・血糖調整(栄養制限している患者・経口摂取できない患者・血糖調整している患者)				講義
6	運動機能(可動性に問題のある患者)				講義
7	疼痛・炎症(疼痛がある患者・炎症がある患者)			事前レポート	講義・演習
8	テスト				
教科書	授業資料配布				
参考書・資料等	看護のための人間論 ナースが視る人体 薄井坦子 :講談社 看護のための疾病論 ナースが視る病気 薄井坦子 :講談社				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)				
関連科目	形態機能学・疾病論・基礎看護技術等				
学生へのメッセージ	形態機能学や薬理学の知識を臨床(看護)の現場でどのよう結び付けて思考し、判断するのかを学びます。				

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	社会福祉学					
講師名	鈴木 隆浩			実務経験	社会福祉士	
単位数	2 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	社会保障の理念、社会保険制度及び社会福祉に関する法や施策について理解する。					
到達目標	自らが日本で生活していく中で、利用できる制度について理解し、人に伝えることができるようになる。					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	社会保障制度と社会福祉 概念・目的・機能・体系・内容				講義	
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 人口動態・地域社会の変化・新たな社会保障や福祉の動き、変化				講義	
3	医療保障 我が国の医療保障制度				講義	
4	介護保障① 介護保険制度について理解する				講義	
5	介護保障② サービス内容について 権利擁護、成年後見制度について				講義	
6	所得補償 我が国の年金保険制度のしくみについて				講義	
7	公的扶助 生活保護法について理解する				講義	
8	社会福祉分野とサービス① 障害者福祉制度について理解する				講義	
9	社会福祉分野とサービス② 障害者総合支援法について理解する				講義	
10	社会福祉分野とサービス③ 高齢者福祉の施策について理解する				講義	
11	児童家庭福祉 児童における制度について理解する				講義	
12	社会福祉実践と医療看護 社会福祉援助について 連携の重要性について				講義	
13	社会保障のまとめ① 日本の制度(社会保障)について再確認する				講義	
14	社会保障のまとめ② 年金・医療保険について再確認する				講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉 :医学書院					
参考書・資料等	国民衛生の動向 :厚生労働省統計協会					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ	「社会福祉」は身の回りの気づかないところに存在しています。一生涯において一切社会福祉に関わらない人はいません。社会福祉の奥深さに触れて、今後の「看護師」「医療職」として深みのある人になってほしいと願います。					

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名	医療概論					
講師名	佐田 尚宏			実務経験	医師	
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	医療を取り巻く社会情勢や、医療の歴史的変遷から現状と課題を学び、看護職としての倫理観と看護者にふさわしい感性を養う。					
到達目標	医療の様々な問題に関心が持てる。					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	第1章 生きること、死ぬこと				講義	
2	第2章 医療と医学 第3章 保健・医療				講義	
3	第3章 公衆衛生と保健①				講義	
4	第3章 公衆衛生と保健②				講義	
5	第4章 医療と社会				講義	
6	第5章 医療経済学と医療政策				講義	
7	過去国試問題練習				講義	
8	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度1 医療概論 :医学書院					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門基礎 分野					令和7年度	
授業科目名		関係法規				
講師名		福田 彭知		実務経験	労務管理士	
単位数		1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度		2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的		法の概念を理解する。 人々の健康を守るための従事者に関する法や施策及びサービス提供体制について理解する。 医療過誤と訴訟を理解し、安全への認識を養う。				
到達目標		国家試験合格に対応できるよう、講義を行う。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等		授業方法
1	健康支援と法律 法律の基礎知識 健康支援に関する法規 他					講義
2	医療の提供に関連する法律 保健師・助産師・看護師法①					講義
3	医療の提供に関連する法律 看護師等の人材確保の促進に関する法律					講義
4	医療の提供に関連する法律 医療法					講義
5	医療の提供に関連する法律 医療職種に関する法律					講義
6	医療の提供に関連する法律 その他医療提供に関連する法律 健康増進法 地域保健法					講義
7	疾病予防・健康増進に関連する法律 感染症法 予防接種法 がん対策基本法 臓器の移植に関する法律 栄養士法 他					講義
8	母子に関連する法律 母子保健法 児童福祉法 他 高齢者に関連する法律 高齢者の医療の確保に関する法律 介護保険法 老人福祉法 他					講義
9	社会福祉及び障害者に関連する法律① 社会福祉法 生活保護法 障害者基本法 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律					講義
10	社会福祉及び障害者に関連する法律② 精神保健福祉法 公認心師法 他 医療保健に関連する法律 健康保険法 国民健康保険法 他					講義
11	医薬品・医療機器等に関連する法律 医薬品医療機器等法 薬剤師法 麻薬及び向精神薬取締法 毒物及び劇物取締法 他					講義
12	食品に関連する法律 食品安全基本法 食品衛生法					講義
13	労働に関連する法律 労働基準法 労働安全衛生法 労働者災害補償保険法 男女雇用機会均等法 育児・介護休業法					講義
14	その他医療に関連する法律 教育基本法 学校保健安全法 環境に関連する法律 生活衛生に関連する法律 まとめ					講義
15	テスト					
教科書		系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度4 看護関係法令 : 医学書院				
参考書・資料等		国民衛生の動向 : 厚生労働省統計協会				
評価指標		出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目		社会福祉学				
学生へのメッセージ						

専門基礎 分野					令和 7 年度	
授業科目名	公衆衛生学					
講師名	松森 大輔			実務経験	講師	
単位数	2 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	公衆衛生の基本、保健活動の基盤となる法や施策及び生活者の健康増進について理解する。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	公衆衛生とは 健康とは 公衆衛生の歴史 法律と憲法 予防活動 ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
2	統計の種類 人口静態と人口動態 地域保健			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
3	疫学系統① 研究デザインの種類と特徴			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
4	疫学系統② 相対リスクと寄与リスク 社会疫学			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
5	母子保健① 母子保健法 歴史 母子保健施策			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
6	母子保健② 乳幼児健診 学校保健 学校保健活動			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
7	成人保健 生活習慣病 国民健康づくり運動			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
8	高齢者保健① 高齢者保健制度 在宅医療制度			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
9	高齢者保健② 高齢者虐待と対応			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
10	感染症 感染症の歴史と公衆衛生			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
11	食品衛生 食品の安全 食中毒			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
12	国際保健① 水 貧困 感染症問題			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
13	国際保健② 国際機関のはたらき 日本の国際協力			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
14	国際保健③ SDGs まとめ			パワーポイント資料 PC、プロジェクター等	講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 2 公衆衛生 :医学書院 よくわかる公衆衛生学 :金原出版					
参考書・資料等	国民衛生の動向 :厚生労働省統計協会 公衆衛生がみえる :メディックメディア					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100 点)					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野					令和7年度	
授業科目名	基礎看護学概論Ⅰ					
講師名	①渡邊 和子 ②前原史枝			実務経験	専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	看護の基本となる概念について理解し、「看護とは何か」「看護の対象である人間とは」を考える。 倫理原則および看護者の倫理綱領を理解し、看護現場での倫理的課題に気づき、倫理的課題に対する「問」を持つことができる。					
到達目標	1. 看護の原点と看護の本質に ついて学び、看護の理念に ついて説明できる 2. 人間 環境 健康 看護の 概念とそれぞれの相互関係 について説明できる 3. 看護の歴史的変遷が分かり 、現在の看護を取り巻く社 会の動向が説明できる 4. 看護者としての職業倫理を 理解し、自覚と責任を持つ 姿勢を養う 5. 看護実践に携わる職業の成 り立ちと法制度につて説明 できる 6. 多職種の役割と責務につい て説明できる。 7. 広がる看護の役割、活動領 域について考える 8. 自分の考えをまとめ相手に 分かるように発言、発表で きる 9. 倫理的課題に対するアプローチについて考察する					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	看護の本質				講義	
2	看護とは				講義 グループワーク	
3	看護の対象				講義 グループワーク	
4	看護の対象				講義 グループワーク	
5	健康と生活				講義 グループワーク	
6	看護の役割と機能				講義 グループワーク	
7	看護における連携と協働				講義 グループワーク	
8	1. 倫理とは 2. 医療専門職の倫理規定				講義	
9	3.倫理の歴史的経緯と看護倫理		看護学生1年生の倫理的ジレンマ①		講義	
10	4. 倫理原則:医療の場における原則 ピーチャムとチルドレンフライ		看護学生1年生の倫理的ジレンマ②		講義	
11			看護学生1年生の倫理的ジレンマ③		講義	
12	5. 現代医療におけるさまざまな 倫理問題 * 事例を基にグループ学習		看護学生1年生の倫理的ジレンマ④		講義 グループワーク	
13	6. 倫理的ジレンマ * 事例を通してグループワーク				講義 グループワーク	
14	7. 倫理的葛藤と対応 * 事例を基に検討				講義 グループワーク	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅰ 看護学概論 :医学書院 よくわかる看護職の倫理綱領 :照林社					
参考書・資料等	看護の基礎となるもの :日本看護協会 看護覚書 :現代社 倫理コンサルテーションハンドブック :医歯薬出版株式会社 看護倫理を教える・学ぶ 倫理教育の視点と方法 :日本看護協会出版会 学生のための患者さんの声に学ぶ看護倫理 :日本看護協会出版会 看護倫理を考える言葉 :日本看護協会出版会 事例で学ぶケアの倫理: MC メディカ出版 系統看護学講座 別巻 看護倫理 :医学書院 プリント・資料 (必要に応じて配布)					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(看護覚書・変遷:50点/倫理・論理:50点)					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	基礎看護学概論Ⅱ コミュニケーション、活動・安全・安楽				
講師名	高岩 順子			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	1 看護におけるコミュニケーションについて理解する。 2 姿勢の基本知識、体位保持、ボディメカニクスの原理を理解し、体位と体位交換に必要な基本的援助技術を理解し実施できる。 3 車椅子とストレッチャーについて理解し、移乗移送に必要な基本的援助技術を理解し、実施できる。 4 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠障害をもつ患者への援助技術がわかる。 5 褥法の種類と褥法が身体に及ぼす影響を理解し、褥法の実践がわかる。 6 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について考えることができる。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	コミュニケーションの基本知識			課題(5 点)	講義
2	看護・医療におけるコミュニケーション				
3	コミュニケーションに必要な技術				
4	看護技術を学ぶにあたって 看護技術とは・看護技術の特徴・観察とは			課題(5 点)	講義
5	基本的な活動の援助 ①基本的活動の基礎知識 ②体位 ③移動(体位交換、歩行、移乗・移送)				
6	基本的な休息の援助 ①援助の基本知識 ②睡眠・休息の援助 苦痛の緩和・安楽確保の技術 ①体位保持の基本知識と援助 ②褥法の援助の基本知識と援助				
7	体位交換、歩行の援助、移乗・移送			レポート(10 点)	演習
8	テスト			筆記試験(80 点)	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅱ :医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 :照林社				
参考書・資料等	看護技術がみえる vol.1 :メディックメディア ユマニチュード入門 :医学書院				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	基礎看護技術Ⅰ 環境調整、感染防御				
講師名	鈴木 恵一			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期
学習目的	【環 境】 療養生活の環境の意義を理解し、環境調整ができる。 【感染防止】 感染予防の意義と原則を理解し、行動できる。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	感染防御	感染とその予防と基礎知識 感染と感染症、感染成立の条件、感染予防、院内感染の防止、手指衛生			講義
2		標準予防策(スタンダードプリコーション) 標準予防策の基礎知識、対策の実際			講義
3		感染経路予防策 洗浄・消毒・滅菌 感染経路別予防策の基礎知識、接触予防策、飛沫予防策、空気予防策、洗浄・消毒・滅菌の基礎知識			講義
4		無菌操作(DVD) スタンダードプリコーション演習 無菌操作の基礎知識、対策の実際、手指衛生演習、個人防護用具(PPE)演習			講義
5		無菌操作(DVD) スタンダードプリコーション演習 無菌操作の基礎知識、対策の実際、手指衛生演習、個人防護用具(PPE)演習			講義
6		感染廃棄物の取扱い・針刺し防止策・医療施設における感染管理 感染症廃棄物の基礎知識、針刺し防止の基礎知識、対策の実際、感染管理のための組織、感染発生時の対応			講義
7	環境調整	環境とは			講義
8		快適な環境 快適な生活環境・快適な生活環境の条件			講義
9		病床環境 病床環境・快適な病室の環境条件			講義
10		ベッドメイキング ベッドの構造と付属品・ベッドメイキングの方法			講義
11		無菌操作 医療器具の管理・洗浄消毒滅菌・無菌操作の方法			講義
12		感染症廃棄物 感染性廃棄物とは・感染症廃棄物の取り扱い・針刺し事故時の対応			講義
13		リネン交換 リネン交換の目的と方法			講義
14		臥床患者のリネン交換 リネン交換の目的と方法			講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅲ 基礎看護技術Ⅱ :医学書院				
参考書・資料等	根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 :照林社 プリント・資料 (必要に応じて配布)				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(感染防御:50 点/環境調整:50 点)				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	基礎看護技術Ⅱ バイタルサイン、フィジカルアセスメント				
講師名	① 高岩 順子 ②佐藤 晶子			実務経験	① 専任教員 ② 大学講師
単位数	2 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	【バイタルサイン、フィジカルアセスメント】 バイタルサイン、フィジカルアセスメントの意義を理解する。 体温、脈拍、血圧、呼吸の観察と測定の方法を理解する。 意識レベルの観察を理解する。 対象者の身体的な情報について、五感を駆使して収集する方法を系統別に学び、アセスメントに必要な技術・プロセス・態度を理解する。				
到達目標	「バイタルサインの測定」に関する基礎知識と実施における原理原則、安全・安楽・正確に測定することができる。 問診およびフィジカルイグザミネーション(視診・打診・触診・聴診)の原則と方法について述べることができる。 問診およびフィジカルイグザミネーションを実施し、記録できる。 ヘルスアセスメントを行う上での倫理的配慮・態度を遵守できる。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	バイタルサイン	バイタルサインとヘルスアセスメントとは 環境とその変化、フィジカルイグザミネーション、 BLSメガコードから見る生命の徴候			講義
2		体温測定 バイタルサインとは、体温に関わる生理とは・体温測定の意義と実際 脈拍測定 脈拍測定の意義と実際・ 脈拍のメカニズムと生理機能			講義
3		呼吸測定 呼吸測定の意義と実際・ 呼吸のメカニズムと生理機能 血圧測定 血圧に関する基礎知識・循環動態のメカニズムと生理・触診法と聴診法 の実際			講義
4		意識とは 意識障害について・GCSとJCSの違い・学内演習に向けて			講義
5	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントとは フィジカスアセスメント(1)呼吸器系①		教科書③、パワーポイント	講義
6		フィジカルアセスメント(1)呼吸器系②		教科書③、パワーポイント	講義
7		フィジカルアセスメント(2)循環器系		教科書③、パワーポイント	講義
8		フィジカスアセスメント(3)消化器系		教科書③、パワーポイント	講義
9		フィジカルアセスメント(4)筋骨格系 フィジカスアセスメント(5)神経系		教科書③、パワーポイント	講義
10		フィジカスアセスメント(6)頭頸部・感覚器		教科書③、パワーポイント	講義
11		フィジカルアセスメントの実際(1)呼吸器系		教科書③、聴診器、メジャー、角度計、 バスタオル、アルコール綿、フィジカルア セスメントモデル(人形)、マイク	演習
12		フィジカルアセスメントの実際(2)循環器系 フィジカスアセスメントの実際(3)消化器系 腹部の観察、腸蠕動、限局性圧痛点		教科書③、聴診器、ペンライト、秒針付き 時計、バスタオル、アルコール綿、フィジ カルアセスメントモデル(人形)、マイク	演習
13		フィジカルアセスメントの実際(4)筋骨格系 関節可動域(ROM)、徒手筋力テスト(MMT) フィジカスアセスメントの実際(5)神経系 反射、知覚、小脳機能		教科書③、角度計、打腿器、アルコール 綿、マイク	演習
14		フィジカスアセスメントの実際(6)頭頸部・感覚器 視野検査、瞳孔反射、頭頸部のリンパと甲状腺の触診、聴力検査		教科書③、ペンライト、音叉、秒針付き時 計、アルコール綿、マイク	演習
15	テスト			テスト終了後、演習記録を回収する	
教科書	① 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ :医学書院 ② 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ :医学書院 ③ ナーシング・グラフィカ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ :メディカ出版				
参考書・資料等	根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 :照林社 プリント・資料 (必要に応じて配布)				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(バイタルサイン:30点/フィジカルアセスメント:70点)				
関連科目	形態機能学、心理学、環境学、病態学、看護学概論、看護技術論、看護過程論など (空欄の無いようにということです、貴校の科目名がわからないので…、すみません。)				
学生への メッセージ	フィジカルアセスメント:演習時の身だしなみは、後日指定する通りに整えてくること。				

専門 分野					令和7年度	
授業科目名	基礎看護技術Ⅲ 食事・栄養管理、排泄、清潔・寝衣交換・全身清拭・洗髪					
講師名	①山本佳代 ②速水美樹 ③山本佳代			実務経験	専任教員	
単位数	2 単位	授業回数	24 回	時間数	45 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	通年	
学習目的	【食事・栄養管理】 対象の栄養状態及び食欲・摂取能力について理解し、食事介助に必要な基本的援助技術を身につける。 【排泄】 排泄の意義・メカニズム・アセスメントの方法を理解し、排泄援助に必要な基本的援助技術を身につける。 【清潔・寝衣交換・全身清拭・洗髪】 清潔援助の効果と全身への影響を理解し、清潔に必要な基本的援助技術を身につける。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	① 食事・ 栄養管理	基礎知識 食事の意義			講義	
2		基礎知識 食事と栄養のアセスメント			講義	
3		摂食嚥下 摂食嚥下障害、摂食嚥下訓練			講義	
4		食事援助 誤嚥の予防／経口摂取解除の方法			講義	
5		食事援助 食事援助の実際			講義	
6		食事援助 非経口的栄養摂取の方法			講義	
7		食事援助			演習	
8	② 排泄	基礎知識 自然排尿・排便の基礎知識			講義	
9		基礎知識 排尿・排便のアセスメント			講義	
10		援助の実際 トイレ介助・ポータブルトイレ介助			講義	
11		援助の実際 床上排泄(尿器・便器・おむつ介助)			講義	
12		援助の実際 一時的導尿・持続導尿			講義	
13		援助の実際 排便を促す援助(浣腸・摘便)			講義	
14		トイレ介助・ポータブルトイレ介助			演習	
15	③ 清潔・寝衣交換・ 全身清拭・洗髪	清潔援助の基礎知識 清潔と衣生活に影響する要因 清潔と衣生活のアセスメント、清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助			演習	
16		清潔援助の実際：入浴・シャワー浴の介助		入浴・シャワー浴の介助	演習	
17		清潔援助の実際：点滴ドレーン等を装着していない患者の清拭・寝衣交換・整容		清拭・寝衣交換・整容	演習	
18		清潔援助の実際		清拭・寝衣交換	講義	
19		清潔援助の実際		清拭・寝衣交換	講義	
20		清潔援助の実際：洗髪・手浴・足浴		洗髪・手浴・足浴	講義	
21		清潔援助の実際		洗髪・整容・手浴・足浴	講義	
22		清潔援助の実際		洗髪・整容・手浴・足浴	講義	
23		まとめ			講義	
24	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ :医学書院					
参考書・資料等	根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 :照林社 ナースが視る人体 :講談社 看護 形態機能学 プリント・資料 (必要に応じて配布)					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、 筆記試験(食事・栄養管理:30点/清潔・寝衣交換・全身清拭・洗髪:40点/排泄:30点)					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	基礎看護技術Ⅳ 看護過程				
講師名	中島一美			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	看護過程を構成する要素とそのプロセスと看護過程を用いることの意義を理解する。 看護過程の各段階について基本的な考えを学び、V.ヘンダーソンの看護理論に基づく看護過程の展開ができる。				
到達目標	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を説明できる 2. 看護過程の各段階についての基本的な考え方を記述することができる 3. 看護記録の目的と留意点について記述することができる 4. 実際の事例をもとに看護過程の展開ができる				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	看護過程とは、看護過程の5つの構成要素 5つの構成要素の関係				講義
2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方、問題解決過程・クリティカルシンキング論的配慮と価値判断、リフレクション				講義
3	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 看護過程の各段階ヴァージニア・ヘンダーソン、看護の定義				講義
4	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 アセスメント(情報の収集と分析)				講義
5	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 看護問題の明確化				講義
6	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 看護計画				講義
7	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 実施・評価				講義
8	看護記録とは、記載管理における留意点、看護記録の構成 SOAP 法・看護サマリー				講義
9	事例展開: 誤嚥性肺炎 情報(基礎データ) ～患者から情報をとる～				講義
10	事例展開: 誤嚥性肺炎 アセスメント				講義
11	事例展開: 誤嚥性肺炎 看護問題の明確化				講義
12	事例展開: 誤嚥性肺炎 看護計画				講義
13	事例展開: 誤嚥性肺炎 実施				講義
14	事例展開: 誤嚥性肺炎 評価・記録(SOAP)				講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 看護技術Ⅰ :医学書院				
参考書・資料等	看護過程に沿ったヘンダーソン看護論の実践 :ヌーヴェルヒロカワ 看護学生のためのレポート&実習記録の書き方 :照林社 患者さんの情報収集ガイドブック :メヂカルフレンド社 プリント・資料 (必要に応じて配布)				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目	基礎看護概論・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
学生へのメッセージ	看護過程とは、看護師が看護を行うプロセスです。患者さんに必要な看護ケアが判断・実施できるように一緒に学んでいきましょう。				

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	臨床看護技術Ⅰ 経過別看護、症状別看護				
講師名	門馬 良明			実務経験	看護師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	これまでに学んだ講義や演習・実習から得た知識・技術を基に対象の状態をアセスメントし、看護を統合的に考える能力を習得する。事例検討やグループワーク、自己学習を活用して理解を深める。				
到達目標	1)健康状態に伴う看護ニーズの特徴、看護の在り方を理解する。 2)主要症状に関して、人体の解剖生理的メカニズムを理解し、症状改善のために必要な援助を理解する。 3)疾患、症状、治療を関連付けて事例患者の状態を考察する。 4)臨床看護師が行う思考過程を理解する。 5)自己学習能力を培い、自らの課題を明らかにする。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	健康と経過別の看護の概念 ①健康とは ②経過別の区分 ③健康の維持・増進				講義
2	臨床推論と臨床判断(臨床看護師の思考過程)				講義
3	急性期における看護 ①急性期の特徴 ②侵襲の強い検査を受ける患者の看護 ③手術を受ける患者の看護				講義
4	急性期 事例1:心筋梗塞 ①病態 ②検査 ③治療				講義
5	事例1:心筋梗塞 ①循環障害に関連する症状とメカニズム(胸痛・呼吸困難・ショック他) ②看護上のニーズと必要な看護			確認テスト(配点:10点)	講義・グループワーク
6	慢性期 事例2:COPD ①病態 ②検査 ③治療				講義
7	事例2:COPD ①呼吸障害に関連する症状とメカニズム(呼吸困難・咳嗽他) ②看護上にニーズと必要な看護			確認テスト(配点:10点)	講義・グループワーク
8	回復期 事例3:脳梗塞 ①病態 ②検査 ③治療				講義
9	事例3:脳梗塞 ①排泄機能障害、身体的不活動院関連する症状とメカニズム(失禁・廃用性症候群他) ②看護上にニーズと必要な看護			確認テスト(配点:10点)	講義・グループワーク
10	終末期 事例4:肝硬変 ①病態 ②検査 ③治療				講義
11	事例4:肝硬変 ①安楽に関連する症状とメカニズム(痛み・嘔気他)②看護上にニーズと必要な看護			確認テスト(配点:10点)	講義・グループワーク
12	グループワーク事例:年齢(青年期・成人期・老年期) 疾患(胃がん、心不全、大腿頸部骨折、脳出血、肺がん等) 健康状態(急性期・回復期・慢性期・終末期)				講義
13	テスト(20分)・グループ発表準備			事前学習(配点:20点)	講義
14	グループワーク発表				演習
15	グループワーク発表				演習
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護学総論 :医学書院				
参考書・資料等	必要時資料を配布します。				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、レポート(20点)、確認テスト(40点)、終講試験(40点)				
関連科目	形態機能学、基礎看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅳ、領域別臨地実習				
学生へのメッセージ	疾患・症状・治療・看護を関連付けて、対象の今の状態を把握する訓練をします。臨地実習で必要とされる判断力を養います。自己学習を事前に行い、授業に参加するようにして下さい。				

専門 分野					令和7年度	
授業科目名		臨床看護技術Ⅱ 呼吸循環を整える技術・救急蘇生法演習、検査、創傷処置・包帯法				
講師名		①速水 美樹 ②久保川 利哉		実務経験	①専任教員 ②講師	
単位数		1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度		2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的		呼吸循環を整える基礎的な援助技術を理解し、実践できる。 創傷管理の基礎知識を理解し、その援助を実践できる。 救急処置の必要性を理解し、実践できる。 検査の意義・目的を理解し、検査に合わせた看護援助が実践できる。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等		授業方法
1	症状・生体機能管理技術	A.症状・生体機能管理技術の基礎的知識 ①症状・生体機能管理の目的と看護師の役割 ②検体検査および生体情報のモニタリング				講義
2		B.検体検査 ①血液検査(静脈血採血、動脈血採血、血糖採血)				講義
3		B.検体検査 ②尿検査 ③便検査				講義
4		B.検体検査 ④喀痰検査				講義
5		生体情報のモニタリング ①心電図モニター ②SPO ₂ モニター ③血管留置カテーテルモニター				講義
6	創傷管理技術	創傷措置 ①創傷管理とは ②皮膚の構造 ③創傷治癒課程 ④創傷管理の方法 ⑤褥瘡				講義
7		包帯法 ①包帯法の意義・目的 ②包帯の種類 ③包帯の巻き方(講義・演習)				講義
8		包帯法 ③包帯の巻き方(講義・演習)				演習
9	診察・検査・処置における技術	A.診察の介助 ①診察介助の目的 ②診察時の体位と介助				講義
10		B.検査・処置の介助 ①X線検査 ②コンピュータ断層写真 ③磁気共鳴画像(MRI) ④内視鏡検査 ⑤超音波検査(エコー検査) ⑥心電図検査 ⑦肺機能検査 ⑧核医学検査 ⑨穿刺				講義
11	呼吸・循環を整える技術 救命救急措置技術	呼吸・循環を整える技術 A. 酸素療法(酸素吸入法) B. 排痰ケア C. 胸腔ドレナージ				講義
12		呼吸・循環を整える技術 D. 吸入 E. 人工呼吸療法 F. 体温管理の技術 G. 末梢循環促進ケア				講義
13		救急救命処置技術 A. 救急救命の基礎知識 B. 心肺蘇生法 C. 止血法 D. 院内急変時の対応				講義
14		救急救命処置技術 一次救命処置の実践				演習
15	テスト (①速水 美樹 50 点 ②久保川 利哉 50 点)					
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ :医学書院				
参考書・資料等		根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 :医学書院 生体検査・検体検査・看護技術 :学研 ナースが視る人体 :講談社 ナースが視る病気 :講談社 看護 形態機能学 :日本看護協会				
評価指標		出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、 筆記試験(呼吸循環を整える技術・救急蘇生法演習・創傷措置・包帯法:50 点/検査:50 点)				
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	臨床看護技術Ⅲ 与薬、採血・注射・輸血					
講師名	勅使川原 真弓			実務経験	専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	薬物の剤形と特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理法を学び、与薬における看護師の役割を理解する。 各投与の特徴を理解し、援助の実際を学ぶ。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	基礎的知識 与薬の基礎知識				講義	
2	与薬法 経口与薬・口腔内与薬				講義	
3	与薬法 吸入・点眼・点鼻				講義	
4	与薬法 経皮的与薬・直腸内与薬				講義	
5	注射法 注射の基礎知識				演習	
6	注射法 皮下注射・皮内注射				講義	
7	注射法 筋肉内注射・静脈内注射				講義	
8	注射法 点滴静脈内注射・中心静脈内カテーテル				講義	
9	注射法 輸液ポンプ・シリンジポンプ				講義	
10	注射法 輸血の管理				演習	
11	点滴の計算				演習	
12	針とアンプルの接続 アンプルカット				講義	
13	皮下注射・筋肉注射				演習	
14	点滴接続				演習	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ :医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論					
参考書・資料等	根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 :医学書院					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	地域・在宅看護論概論				
講師名	石向 順子			実務経験	看護師
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期
学習目的	地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護の基礎を学ぶ。 在宅看護とは何か、臨床看護とは異なる特徴、在宅看護が必要とされている社会的背景の変遷、家族看護の意味するところを学ぶ。 在宅看護に関する関係法規を学ぶ。				
到達目標	在宅看護の目的と基本理念が理解できる。 在宅看護と臨床看護の特徴が理解できる。 在宅看護の変遷と社会背景について理解できる。 在宅看護の対象者の特徴が理解できる。 在宅看護に関する関係法規が理解できる。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	在宅看護に至る社会背景			前課題：訪問看護の歴史	講義
2	在宅看護の対象者			課題 DVD：感想 『ドキュメント 72 時間 街をゆく』	講義
3	在宅看護の対象者としての家族			課題： 在宅ケア・在宅療養者・介護 者の記事	講義
4	在宅看護の提供方法				講義
5	在宅に関わる法令・制度			課題：関係法規について	講義
6	訪問看護制度				講義
7	在宅看護の目的と特徴・まとめ				講義
8	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 :医学書院				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)				
関連科目	関係法規				
学生への メッセージ	「在宅看護」って何だろう？ 臨床の看護と在宅の看護って何が違うの？ 患者さんの自宅へ訪問し、病棟で行った ケアを提供するの？ 在宅での看護は病室におけるケアの延長ではありません。イメージを深めるために、ビデオ学習・ニュースを 取り入れ、地域や自宅で生活する、療養することや療養者を抱える家族について理解を深めてほしいと思っています。				

専門 分野					令和7年度	
授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅰ					
講師名	小和田 裕美			実務経験	保健師	
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	地域の様々な現場での健康課題に対する支援を理解し、健康な暮らしに向けての課題を他者と共有しながら見出していく力、それを人に伝える力を身に付ける。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	ガイダンス 臨地演習の明確化				講義	
2	地域の健康課題とその取り組みについて情報の獲得				講義	
3	現場での情報収集				講義	
4	現場での情報収集				講義	
5	現場での情報収集				講義	
6	チームでの共有				講義	
7	プレゼンテーション			プレゼンテーション	発表会	
8	再構築				講義 グループワーク	
教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 :医学書院					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅱ 防災プロジェクト				
講師名	前原 史枝			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期
学習目的	地域で暮らす多様な人々の災害時の支援を理解する。				
到達目標	暮らしにおける災害対策において、看護師としてどのような役割を果たすことができるのか考える。 避難力(イメージ力、危険予測力、状況判断力など)を身につける。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	地域での暮らしにおける防災対策				講義 個人ワーク
2	演習(シミュレーション)				講義 グループワーク
3	防災について 看護学生として何ができるか防災プロジェクトを立ち上げる。 小山市について調査、防災プロジェクトチーム編成、情報収集				グループワーク
4	問題発見、解決策を考える				グループワーク
5	プレゼン準備(プレゼンパネル作成、リハーサル、プログラム、役割分担)				グループワーク
6	プレゼンテーション				グループワーク
7	プレゼンテーション				グループワーク
8	リフレクション				講義 グループワーク
教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 :医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 2 :医学書院				
参考書・資料等	避難シミュレーションで命を守る！－新しい避難訓練とマニュアルづくり－ 鈴木敏恵著:教育同人社				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目	災害看護学				
学生への メッセージ	危険に気づくセンシング能力を高められるために演習を行ないます。 そして、小山市について調査し地域の中で防災について看護学生として何ができるのか提案します。				

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅲ 在宅でのコミュニケーション、日常生活行動への援助					
講師名	石向 順子			実務経験	看護師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	地域包括システムにおける在宅看護の位置づけと看護の役割について理解する。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	療養の場の移行に伴う看護					
2	在宅看護の過程					
3	療養上のリスクマネジメント ・転倒、転落 ・薬物 ・火災 ・医療処置					
4	在宅における感染対策					
5	在宅療養者の権利保障 ・個人情報の保護 ・成年後見制度 ・虐待の防止					
6	在宅における災害対策 地域・在宅における時期別看護					
7	在宅における終末期の看護					
8	在宅におけるエンゼルケア ACP					
9	在宅におけるコミュニケーション					
10	医療的ケア児の地域での生活を支える看護					
11	精神疾患がある在宅療養者への看護					
12	難病とともに生きる在宅療養者の看護					
13	認知症がある在宅療養者の看護					
14	在宅におけるケアマネジメント					
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 :医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 2 :医学書院					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅳ 医療処置に伴う生活支援、在宅での医療処置技術					
講師名	石向 順子				実務経験	看護師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	在宅療養者の特徴を理解し、病期や状況に応じた看護について理解する。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	在宅における看護技術 1. 食生活、嚥下に関する在宅看護技術				講義	
2	2. 経管栄養法を受ける療養者の援助				講義	
3	食生活、嚥下に関する在宅看護の技術				演習	
4	3. 在宅における創傷管理(褥瘡・スキンケア)				講義	
5	在宅におけるポジショニング				演習	
6	在宅における清潔ケア				講義	
7	在宅における人工呼吸器の援助				講義	
8	在宅酸素療法				講義	
9	在宅における排痰ケア				演習	
10	移動・活動に関する在宅看護技術				演習	
11	在宅における服薬管理				講義	
12	在宅における排泄ケア				講義	
13	在宅における排泄ケア				演習	
14	まとめ				講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 : 医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 2 : 医学書院					
参考書・資料等	写真でわかる訪問介護 : インターメディカ					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅴ 在宅療養者の健康課題への看護、看護過程				
講師名	①小和田 裕美 ②鈴木 恵一			実務経験	①看護師 ②専任教員
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期
学習目的	在宅療養者の健康課題を明らかにし、その人らしい暮らしを支えるための看護の実際について理解する。				
到達目標	地域の健康ニーズをふまえ、ひとり一人の生活と健康をよりよくするための支援について理解する。 社会が求める看護について考え、これからの地域・在宅看護のあり方を創造的に考えることができる。 地域・在宅看護過程の特性をふまえた地域・在宅看護過程の展開方法を理解する。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	在宅療養者の健康課題への援助 1)地域に暮らす人の健康課題 2)地域包括ケアシステムと地域・在宅看護の役割				講義
2	在宅療養者の健康課題への援助 3)地域・在宅看護活動の創造と展開例 4)訪問看護実習の実際				講義
3	在宅療養者の健康課題への援助 5)地域・在宅看護過程の基本 6)地域・在宅看護過程の特徴				講義
4	地域・在宅看護における看護過程 1)事例紹介(ALS) 2)情報収集とアセスメント			地域・在宅看護実習記録	講義・演習
5	地域・在宅看護における看護過程 2)情報収集とアセスメント 3)看護問題・看護目標			地域・在宅看護実習記録	講義・演習
6	地域・在宅看護における看護過程 "			地域・在宅看護実習記録	講義・演習
7	地域・在宅看護における看護過程 4)看護計画			地域・在宅看護実習記録	講義・演習
8	地域・在宅看護における看護過程 5)実施と評価 6)まとめ			地域・在宅看護実習記録	講義・演習
教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 :医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論2 :医学書院				
参考書・資料等	強みと弱みからみた在宅看護過程 : 医学書院 コミュニティナース まちを元気にする"おせっかい"焼き看護師 : 気楽舎				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目	公衆衛生学、関係法規、社会福祉、老年看護学				
学生への メッセージ					

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	成人看護学概論				
講師名	國井 哲子			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	成人の特徴を理解し、健康保持・増進や疾病の予防について理解する。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	成人の特徴と生活				講義
2	成人の生活習慣とその影響				講義
3	成人を取り巻く環境 人口、経済、環境、メンタルヘルスと自殺、健康状態				講義
4	成人期に特徴的な健康問題 健康観、疾病予防、ストレス理論				講義
5	ヘルスプロモーション活動 健康増進、労働者の健康、トータルヘルスプロモーション				講義
6	急激な健康の破綻 急性期、がん、フィंकの危機理論、慢性期患者の特徴				講義
7	自己効力 自己効力を促進する4つの要素 死の受容 結果予期、効力予期、キューブラー・ロスの市の受容				講義
8	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学1 成人看護学総論 :医学書院				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100 点)				
関連科目					
学生への メッセージ					

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	成人看護学方法論Ⅰ 周術期・救急、終末期、リハビリ期				
講師名	①竹内 梢 ②富澤 喜久江 ③高岩 順子			実務経験	①看護師 ②緩和ケア認定看護師 ③専任教員
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的	成人の周術期・救急期・終末期・リハビリ期の健康レベルにある患者の特徴を理解し、看護をてんかいするための基本的看護を理解する。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	周術期・救急	周術期看護の概論 麻酔法・呼吸管理・体液管理		6 章 P194～216	講義
2		手術前の看護 外来における看護・術前処置・術前準備・日帰り手術における役割		7 章 P218～232	講義
3		手術中の看護 安全管理・入室前、入室時、麻酔導入時の看護・手術中看護・環境管理		8 章 P250～290	講義
4		手術後の看護 ①回復への援助		9 章 A P294～309	講義
5		手術後の看護 ②術後合併症について		9 章 B P311～331	講義
6		手術後の看護 ③ICU看護 ④対象別看護(1)		10・11 章 P334～370	講義
7		手術後の看護 ④対象別看護(2)		12・13 章 P372～405	講義
8	終末期	人生の最期の時を支える看護 人生の最終段階における医療の現状 緩和ケア概論 緩和ケア病棟 他			講義
9		人生の最期の時を支える看護 全人的苦痛(トータルペイン)・スピリチュアルケア・臨死期のケア			講義
10		人生の最期の時を支える看護 家族ケア・グリーフケア・エンゼルケア 他			講義
11	リハビリ期	慢性期にある患者の看護:慢性期の特徴、疾患、治療経過の特徴、患者のニーズ			講義
12		慢性期にある患者の特徴:患者の特徴、身体的心理的社会的特徴、各期の問題、痛みの軌跡、看護の特徴			講義
13		回復期にある患者の看護:理論、障害がある人とその生活を支援する看護			講義
14		回復期にある患者の看護:看護の実際、看護師の役割、維持期のリハビリテーションと看護、社会参加への支援:在宅ケアと看護師の役割			講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護学総論 :医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床看護学総論 :医学書院				
参考書・資料等	ナースが視る人体 :講談社 ナースが視る病気 :講談社				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(周術期・救急:50 点/終末期:20 点/リハビリ期:30 点)				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和 7 年度		
授業科目名		成人看護学方法論Ⅱ 脳神経、循環器、呼吸器				
講師名		①新井 麻衣 ②高橋 堅吾 ③山本 佳代		実務経験	①②看護師 ③専任教員	
単位数		1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度		2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的		脳神経機能に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 循環機能に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 呼吸機能に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。				
到達目標		看護が理解できる。				
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等		授業方法
1	① 脳神経	脳神経機能障害のある患者の看護 1) 原因と障害の程度とアセスメント ①生命・生活への影響 ②意識障害		パソコン (パワーポイント)		講義
2		2) 運動感覚機能障害・言語機能障害 ①高次脳機能障害		パソコン (パワーポイント)		講義
3		②病気や機能障害に応じた看護 頭部外傷・ギランバレー症候群・ALS・脳腫瘍・脳炎・髄膜炎 嚥下障害・排尿障害・パーキンソンについて		パソコン (パワーポイント)		講義
4		3) 検査を受ける患者への看護(脳波・髄液・アンギオ) 4) 病期や機能障害に応じた看護(CI)		パソコン (パワーポイント)		講義
5		4) 病期や機能障害に応じた看護(くも膜下出血)		パソコン (パワーポイント)		講義
6	② 循環器	循環器障害のアセスメントと看護 心臓の構造・症状と看護				講義
7		検査と治療時の看護				講義
8		疾患を持つ対象の看護① 心筋梗塞患者の看護				講義
9		疾患を持つ対象の看護② 心筋梗塞患者の看護				講義
10	③ 呼吸器	医療の動向と看護 呼吸器の構造と機能 喫煙と呼吸器疾患との関連性・結核と新型インフルエンザについて 標準予防策について・呼吸器疾患患者の特徴 呼吸器構造(肺胞、気管支、縦郭に存在する臓器)				講義
11		呼吸器疾患の主な症状 呼吸のために肺を動かすメカニズム・呼吸の調節・ガス交換と酸塩 基平衡について・呼吸器疾患の自覚症状と他覚症状				講義
12		呼吸器疾患の主な症状と病態生理 異常呼吸音の分類と疾患との関連性・CO ₂ ナルコーシスについて				講義
13		各呼吸器疾患の病態・診断・治療・検査 動脈血ガス分析でわかること 呼吸機能障害のパターン(拘束性・閉塞性・混合性寒気障害) 気管支鏡検査・胸腔穿刺・人工呼吸の適応について				講義
14		呼吸器疾患の看護 異常呼吸音について振り返り・体位ドレナージとは・肺がん患者の 看護・気管支喘息患者の看護・慢性閉塞性肺疾患患者の看護				講義
15	テスト					
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学7 脳神経 : 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 循環器 : 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 呼吸器 : 医学書院				
参考書・資料等		ナースが視る人体 : 講談社 ナースが視る病気 : 講談社				
評価指標		出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目		脳:解剖生理				
学生へのメッセージ		【脳神経 新井 麻衣】 【循環器 高橋 堅吾】				

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	成人看護学方法論Ⅲ 消化器、運動器、内分泌					
講師名	WAGON 講師			実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	消化器機能に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 内分泌機能に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 運動器に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	食道がん 胃食道逆流症				講義	
2	胃・十二指腸潰瘍 胃がん				講義	
3	大腸疾患(検査、手術、看護)				講義	
4	ストマについて 便秘・腸閉塞				講義	
5	膵炎(ERCP検査、治療)				講義	
6	胆石症			小テスト	講義	
7	ウイルス肝炎			小テスト	講義	
8	肝硬変				講義	
9	肝硬変、肝細胞がん			小テスト	講義	
10	糖尿病(検査)				講義	
11	糖尿病(治療、看護)				講義	
12	内分泌疾患(治療)				講義	
13	内分泌疾患(検査、看護)				講義	
14	運動器(治療、検査、看護)				講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学5 消化器 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学6 内分泌・代謝 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動期 :医学書院					
参考書・資料等	ナースが視る人体 :講談社 ナースが視る病気 :講談社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	成人看護学方法論Ⅳ 血液・造血器系、腎・泌尿器系、女性生殖器系・乳房				
講師名	①國井 哲子 ②			実務経験	①②講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的	身体防御機能(血液造血器)に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 内部環境(体液量)・排尿機能・男性生殖器(腎泌尿器系)に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 性・生殖・乳腺機能(女性生殖器)に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	血液・造血器系	血液のはたらき 貧血の症状、病態、看護			講義
2		血液の悪性腫瘍 白血病の症状、病態、看護、化学療法、造血幹移植患者の看護			講義
3		慢性白血病・悪性リンパ腫 様々な治療を受ける患者の看護 抗がん薬・放射線治療を受ける患者の看護			講義
4		輸血治療について			講義
5	腎・泌尿器系	慢性腎臓病① 腎臓の解剖生理、慢性腎臓病の看護			講義
6		慢性腎臓病② 腎代替療法、腎移植、慢性腎臓病の看護、PHの異常			講義
7		ネフローゼ症候群等 ネフローゼ症候群、急性糸球腎炎、慢性糸球体腎炎			講義
8		肺尿路の患者と看護 前立腺肥大症、がん、尿路感染症、膀胱がん、尿路結石症			講義
9	女性生殖器系・乳房	女性生殖器 内性器の診療介助における看護 臓器別機能的疾患患者の看護、子宮、卵巣			講義
10		女性生殖器 内性器の手術を受ける患者の看護 前日・当日・一日目			講義
11		乳房の手術を受ける患者の看護① 二日目から退院まで			講義
12		乳房の手術を受ける患者の看護② 二日目から退院まで			講義
13		女性生殖器の化学療法を受ける患者の看護			講義
14		放射線療法を受ける患者の看護			講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学4 血液・造血器 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学8 腎・泌尿器 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 :医学書院				
参考書・資料等	ナースが視る人体 :講談社 ナースが視る病気 :講談社				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(血液・造血器系・腎・泌尿器系:60点/女性生殖器系:40点)				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和7年度		
授業科目名	成人看護学方法論Ⅴ アレルギー・膠原病 ・ 看護過程					
講師名	①WAGON 講師 ②速水美樹			実務経験	①講師 ②専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期	
学習目的	身体的機能(皮膚・アレルギー・膠原病)に障害を持つ成人の患者のとの特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 感覚器に機能障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 成人期にある患者の看護がヘンダーソンの看護倫理に基づき、看護過程の展開ができる。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	アレルギー・膠原病	アレルギーとは I～Ⅳ型アレルギーの特徴				講義
2		アレルギー疾患 気管支喘息				講義
3		膠原病とは 概要				講義
4		膠原病疾患 関節リウマチ・全身エリテマトーデス				講義
5		感覚器疾患 中耳炎・メニエール病・白内障・緑内障				講義
6	看護過程	看護過程とは 基礎看護実習Ⅱでの学び(看護過程の展開)の振り返り データベースと情報収集 アセスメントの考え方 『患者さんの情報収集ガイドブック』を基に、アセスメントシートの書き方を振り返る (日常生活の中の出来事に置き換えて)				講義
7		関連図と問題の抽出について(優先順位って?) 病態関連図と全体関連図の違い 抽出された問題の整理の仕方(統合の仕方)				講義
8		行動計画 行動計画の立て方 目標の立て方や達成度の書き方 記録のつながりを意識させる				講義
9		看護計画 看護計画の立て方 看護目標・短期目標の立て方やSOAPを用いて看護計画を修正する方法 PDCAサイクル・記録のつながりを意識させる				講義
10		情報収集から問題抽出まで ① (胃がんの事例) DVDの事例を基にデータベース・アセスメント用紙・関連図を各グループ毎にまとめたものから、事例の患者に対して必要な看護を考える				講義
11		情報収集から問題抽出まで ② (胃がんの事例) 書画カメラを用いて各グループでまとめたものを発表し、お互いに意見交換を行う。不足分を追加し、アセスメント内容を充実させる				講義・発表会
12		情報収集から問題抽出まで ③ (慢性心不全の事例) 2事例目のDVDを見て、各自自己学習+各グループでまとめた内容(データベース・アセスメント用紙・関連図)を各グループ毎に共有し、知識を深める				講義
13		関連図の考え方を見直す看護診断について 病態関連図と実習で作成する全体関連図の違いを理解する。 DVDの症例を基に関連図を作成する。NANDA(看護診断)の概要説明				講義
14		成人期の看護過程のまとめ 看護計画とSOAPのつながりを再確認 看護の持続性について				講義
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 循環器 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学6 内分泌・代謝 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 11 アレルギー・膠原病・感染症 :医学書院					
参考書・資料等	看護過程に沿ったヘンダーソン看護論の実践 :ヌーヴェルヒロカワ					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	老年看護学概論					
講師名	柴田 久仁子			実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期	
学習目的	加齢に伴う高齢者の生活について理解する。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	老年期・老年者の理解① 加齢と老化				講義	
2	老年期・老年者の理解② 老年期の発達課題				講義	
3	高齢者の保健医療福祉① 日本の高齢社会の特徴と課題				講義	
4	高齢者の保健医療福祉② 保健・医療・福祉の動向				講義	
5	高齢者の保健医療福祉③ 介護保険制度と介護家族				講義	
6	高齢者の保健医療福祉④ 高齢者の倫理的課題				講義	
7	老年看護の役割 老年看護の特徴・役割				講義	
8	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 : 医学書院					
参考書・資料等	根拠がわかる老年看護技術 : メディカルフレンド					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100 点)					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	老年看護学方法論Ⅰ 高齢者アセスメント ・ 高齢者の日常生活援助					
講師名	大久保 礼子			実務経験	専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	加齢に伴う機能低下や日常生活に及ぼす影響を知り、安全・安楽に向けた日常生活について学ぶ。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	高齢者のアセスメント 高齢者の身体的・精神的特徴				講義	
2	身体症状とアセスメント 高齢者によくみられる症状とアセスメント(発熱・痛み・かゆみ)				講義	
3	高齢者によくみられる症状とアセスメント(脱水・嘔吐・浮腫・倦怠感)				講義	
4	生活機能を整える看護 食生活と嚥下・摂食に関わる援助 ①				講義	
5	食生活と嚥下・摂食に関わる援助 ②				講義	
6	高齢者を理解する 高齢者疑似体験 (演習) 高齢者を観察しよう (個人ワーク)				演習 個人ワーク	
7	高齢者疑似体験 (演習) 高齢者を観察しよう (個人ワーク)				演習 個人ワーク	
8	生活機能を整える看護 義歯の取扱い・スポンジブラシの方法 (演習) 高齢者と廃用性症候群 (個人ワーク)				演習 個人ワーク	
9	義歯の取扱い・スポンジブラシの方法 (演習) 高齢者と廃用性症候群 (個人ワーク)				演習 個人ワーク	
10	身体可動性に関わる援助 基本動作と環境				講義	
11	排泄に関わる援助 生活リズムへの援助				講義	
12	清潔に関わる援助 入浴方法・清拭・陰部洗浄・フットケア				講義	
13	日常生活援助の実際 おむつ交換・入浴 (演習) 高齢者へ日常での健康障害を予防するパンフレット作成(グループワーク)				講義 演習 グループワーク	
14	日常生活援助の実際 おむつ交換・入浴 (演習) 高齢者へ日常での健康障害を予防するパンフレット作成(グループワーク)				講義 演習 グループワーク	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 :医学書院					
参考書・資料等	根拠がわかる老年看護技術 :メヂカルフレンド社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野					令和7年度	
授業科目名		老年看護学方法論Ⅱ 高齢者の症状別看護 脱水・尿失禁・誤嚥、身体可動性障害、看護過程				
講師名		①WAGON 講師 ②勅使川原 真弓		実務経験	①講師 ②専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期	
学習目的		さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活及び健康を支える看護を理解する。				
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	高齢者の 症状別看護 脱水・尿失禁・誤嚥、 身体可動性障害	症状のアセスメントと看護① 発熱・疼痛・痒痒			講義	
2		症状のアセスメントと看護② 脱水・嘔吐・浮腫			講義	
3		検査を通して高齢者の援助を考える 上部内視鏡透視・上部消化管透視			講義	
4		急性期の高齢者の援助 術前訓練・術後訓練			講義 グループワーク	
5		術後の高齢者の援助① ムーアの分類における身体変化			講義	
6		術後の高齢者の援助② 術後合併症			講義	
7		高齢者の健康 リハビリテーションを受ける高齢者への看護			講義	
8		障害の特徴① 慢性期の高齢者への看護			講義	
9		障害の特徴② エンドオブライフケア			講義	
10		障害の特徴③ 事例を使ってアセスメント・計画立案			講義	
11	看護過程	情報の整理		記録用紙1号	講義・演習 個人ワーク グループワーク	
12		患者の現状をつかむためのアセスメント①		記録用紙2号	講義・演習 個人ワーク グループワーク	
13		看護問題抽出		看護問題リスト	講義 個人ワーク	
14		看護問題抽出		看護問題リスト	グループワーク	
15	テスト					
教科書		系統看護学講座 専門分野 老年看護学 ：医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 ：医学書院				
参考書・資料等						
評価指標		出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	老年看護学方法論Ⅲ 疾患を持つ高齢者の看護 循環器疾患・呼吸器疾患 ・ 骨粗鬆症・骨折 褥瘡・認知症・高齢者の薬物療法					
講師名	①岡 沙織 ②中山 恵子 ③大久保 礼子			実務経験	①②看護師 ③専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期	
学習目的	高齢者に特有な疾患の特徴や看護を理解する。 加齢に伴う機能低下や日常生活に及ぼす影響を知り、V.ヘンダーソンの看護理論に基づく 看護過程の展開ができる。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	①疾患を持つ高齢者の看護 循環器疾患・呼吸器疾患・ 骨粗鬆症・骨折	症候のアセスメントと看護 症候のアセスメントとは、個別性の看護とは 掻痒・皮膚疾患		パソコン（パワーポイント）	講義	
2		症候のアセスメントと看護 発熱・痛み・脱水		パソコン（パワーポイント）	講義	
3		症候のアセスメントと看護 嘔吐・浮腫・倦怠感・褥瘡・スキンケア		パソコン（パワーポイント）	講義	
4		身体疾患のある高齢者の看護 脳卒中・心不全・糖尿病・COPD・がん・パーキンソン病		パソコン（パワーポイント）	講義	
5		高齢者の生活機能を整える看護 日常生活を支える基本活動		パソコン（パワーポイント）	講義	
6		高齢者の特徴 運動疾患 手術前後のマネジメント		パソコン（パワーポイント）	講義	
7		高齢者の特徴 運動疾患 手術前後のマネジメント		パソコン（パワーポイント）	講義	
8		運動器疾患 皮膚の疾患		パソコン（パワーポイント）	講義	
9		運動器疾患 皮膚の疾患		パソコン（パワーポイント）	講義	
10		皮膚の疾患（褥瘡）		パソコン（パワーポイント）	講義	
11	③褥瘡・認知症・ 薬物療法 高齢者の薬物療法	認知症 認知症とは 認知症の種類と看護 加齢性変化と認知症			講義	
12		認知症を抱える本人と家族看護 国家試験問題から読み解く			講義	
13		褥瘡 基礎知識 予防法			講義	
14		薬物療法・呼吸器疾患・循環器疾患 薬物動態・ポリファーマシー・老年症候群 老年期における呼吸器疾患の特徴 老年期における循環器疾患の特徴			講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 :医学書院					
参考書・資料等	根拠がわかる老年看護技術 :メヂカルフレンド社 看護形態機能学 :日本看護協会					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、 筆記試験(疾患を持つ高齢者の看護 循環器疾患 呼吸器疾患:40 点/骨粗鬆症・骨折:40 点/褥瘡・認知症・高齢者の薬物療法:20 点)					
関連科目						
学生への メッセージ	【疾患を持つ高齢者の看護 循環器疾患・呼吸器疾患 岡 紗織】 【骨粗鬆症・骨折 中山 恵子】					

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	小児看護学概論				
講師名	WAGON 講師			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	子どもと家族を取り巻く環境を理解する。 小児保健と看護の動向・小児医療・小児看護の変遷及び子どもの権利・倫理・生命尊厳 子どものライフサイクル各期の特徴と成長・発達が理解できる。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	小児看護の特徴 発達段階(成長・発達)、 小児医療の現状、動画視聴				講義
2	小児看護の目的と役割 小児看護の目標、家族支援				講義
3	子どもと家族を取り巻く社会 児童に関する法令、GW(児童福祉法、学校保健安全法、児童虐待防止等に関する法令)				講義
4	子どもと家族を取りまく社会 児童に関する法令、成長発達				講義
5	小児の成長・発達 GW 発表、発達評価				講義
6	家族アセスメント 子どもの発達段階とアセスメント				講義
7	総まとめ 小児看護、家族看護、復習・確認問題				講義
8	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児臨床看護学総論 :医学書院				
参考書・資料等	国民衛生の動向 :一般財団法人 厚生労働統計協会				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	小児看護学方法論Ⅰ 保健、発達に応じた保育				
講師名	WAGON 講師			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的	小児各期における健康増進のための子供と家族への看護が理解できる。 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護が理解できる。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護① 出生数、合計、特殊出生率、こどもの死亡、成長・発達				講義
2	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護② 新生児～乳児～幼児の身体的特徴				講義
3	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護③ アプガースコア、母乳、新生児黄疸、体重減少、胎児循環、産瘤、頭血腫				講義
4	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護④ 子どもの反射、スクリーニング検査、成長・発達				講義
5	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護⑤ ピアジェの認知発達理論、遊び、社会的発達、母乳と離乳食			確認問題	講義
6	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護⑥ プレパレーション、発育曲線の読み方、学童期の特徴、肥満指数				講義
7	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護⑦ 思春期の成長発達に応じた生活への支援				講義
8	病気や診療入院が子どもと家族に与える影響と看護 病気に対する子どもの理解、インフォームドコンセント、兄弟や家族に応じた日常生活への援助				講義
9	感染症に罹患した子どもと家族の看護、周手術期の子どもと看護 隔離の目的・方法、隔離の身体的・心理的・社会的影響、子どもの発達に応じた日常生活への援助				講義
10	外来における子どもと家族への看護 活動制限の目的、心理社会的影響				講義
11	検査・処置を受ける小児と家族の看護① 検査を受ける子どもの気持ち、検査に伴う看護			確認問題	講義
12	検査・処置を受ける小児と家族の看護② 検査を受ける子どもの気持ち、検査に伴う看護				講義
13	診察に伴う看護 身体測定、心配蘇生			確認問題	講義
14	子どもの痛みの受け止め方、プレパレーション プレパレーション、検査・処置(与薬)、救命処置				講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護学各論 :医学書院				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	小児看護学方法論Ⅱ 疾病					
講師名	新市民病院 医師			実務経験	医師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	子どもに起こりやすい健康障害と症状、診断、予後について理解する。					
到達目標						
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	小児保健 健診・予防接種 先天異常				講義	
2	小児代謝性疾患の概論と各論				講義	
3	小児免疫・アレルギー				講義	
4	小児看護 消化器				講義	
5	小児看護 血液・造血器				講義	
6	内分泌疾患と看護				講義	
7	小児神経				講義	
8	新生児の看護				講義	
9	小児看護 呼吸器				講義	
10	小児看護 悪性新生物				講義	
11	感染症の概論と各論				講義	
12	小児 循環器				講義	
13	小児 腎・泌尿器				講義	
14	新生児の正常と異常など				講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護学各論 :医学書院					
参考書・資料等	写真でわかる小児看護技術アドバンス :インターメディカ					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野					令和7年度	
授業科目名	小児看護学方法論Ⅲ 疾病を持つ小児看護 ・ 看護過程					
講師名	①WAGON 講師 ②中島 一美			実務経験	①講師 ②専任教員	
単位数	1 単位		授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度		学年	2 年次	履修期	後期
学習目的	健康課題を持つ子供と家族への看護について理解できる。 検査や処置を受ける子どもと家族への看護について理解できる。 子どものライフサイクル各期の特徴と成長・発達を理解し看護過程の展開ができる					
到達目標						
学習スケジュール					課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	疾病を持つ小児看護	1. 特別な状況にある子供と家族の看護 ①虐待を受けている子どもと家族への看護				講義
2		②災害を受けた子どもと家族への看護				講義
3		2. 急性期にある子どもと家族の看護 ①急性症状 ②救急救命処置				講義
4		③周手術期				講義
5		3. 慢性期にある子どもと家族の看護 ①慢性疾患 DM				講義
6		②先天性疾患 ③心身障害				講義
7		④ネフローゼ症候群				講義
8		⑤ I 型DM				講義
9		⑥急性白血病				講義
10		⑦終末期の看護				講義
11	看護過程	小児看護における看護過程 看護過程に必要な知識・小児の発達段階				講義
12		患者の現状をつかむためのアセスメント 病態(事前学習をもとに関連図を書く)				講義
13		患者の現状をつかむためのアセスメント データベース・アセスメント・看護問題の抽出				講義
14		看護計画 看護計画をチーム内でアドバイス				講義
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児臨床看護学総論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護学各論 :医学書院					
参考書・資料等	パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護学 :照林社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野				令和7年度		
授業科目名		母性看護学概論				
講師名		WAGON 講師		実務経験	専任教員	
単位数		1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度		2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的		母性の概念、母性性の発達、母性看護の対象を理解し、女性のライフサイクル上の発達学的特徴と健康問題を関連させて理解することができる。母性の対象とそれを支える関係法規、母性保護や健康支援の現状を通して、母性看護の役割や課題についてひろく理解することができる。				
到達目標		1)母性看護の基盤となる概念がわかる。 2)母子相互作用と家族の機能について理解する。 3)女性のライフサイクルの特徴と健康課題について理解する。 4)生命倫理や子供の虐待について考え、看護者としての役割を考察する。 5)母性看護の統計と法律より、わが国の今後の課題を理解する。				
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	1)母性看護の基盤となる概念 ①母性とは ②セクシュアリティ ③リプロダクティブヘルス／ライツ ④ヘルスプロモーション ⑤母性看護の在り方			事前レポート(配点：10点)	講義	
2	1)母子関係と家族発達 ①母親役割と父親役割 ②家族発達				講義	
3	1)女性の解剖学的特徴と性周期 2)生殖機能の特徴と変化からみた女性のライフサイクル				講義	
4	1)母子保健統計 ①出生 ②合計特殊出生率 ③周産期死亡 ④死産 ⑤妊産婦死亡⑥婚姻・離婚 ⑦世界の母子保健統計				講義	
5	1)母子保健と法律 ①母子保健法 ②労働基準法 ③男女雇用機会均等法 ④育児・介護休業法 ⑤母体保護法 ⑥死産の届け出に関する規定 ⑦戸籍法 2)母性看護にかかわる施策			事前レポート(配点：10点)	講義・グループワーク	
6	1)児童虐待の現状と対応 2)児童虐待の予防			事後レポート(配点：10点)	講義・グループワーク	
7	1)生命倫理と看護倫理 母性看護における倫理的課題			事後レポート(配点：10点)	講義・グループワーク	
8	テスト					
教科書		系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 :医学書院				
参考書・資料等		国民衛生の動向 :一般財団法人 厚生労働統計協会				
評価指標		出席状況、授業への積極的参加、レポート(40点)筆記試験(60点)				
関連科目		公衆衛生学、関係法規、母性看護学方法論Ⅰ、母性看護学方法論Ⅱ、母性看護学方法論方法論Ⅲ、母性看護学実習				
学生へのメッセージ		母性看護概論では、母性とは何かを幅広くとらえリプロダクティブヘルス／ライツについて理解し、児童虐待や生命倫理についても考える機会とします。女性、そしてその家族の生涯を通じた、健康の保持・増進を旨とする看護の実践を理解するに、母子保健に関わる統計や法律にも目を向け、社会の変化に応じた看護師の役割を学んでいきます。				

専門 分野					令和7年度
授業科目名	母性看護学方法論Ⅰ 保健				
講師名	WAGON 講師			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的	女性のライフステージ各期における特徴と健康課題について理解し、リプロダクティブヘルスケアの視点から母性看護の役割とセルフケアを高める支援の在り方を学ぶ。				
到達目標	1)セルフケアを高める支援の在り方がわかる。 2)女性のライフステージ各期の特徴と健康課題を理解する。 3)リプロダクティブヘルスの現状と課題について理解する。 4)受胎調節法の種類の特徴について理解する。 5)性感染症、妊娠中絶、DVと女性の健康についての現状と看護者の役割について理解する。 6)不妊治療の実際と、治療を受ける家族の看護について理解する。 7)在日外国人の母子保健についてその現状を理解する。				
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	1)女性のライフステージ 2)女性の健康				講義
2	1)保健指導技術 ①健康教育 ②指導案作成の基礎知識				講義
3	思春期の特徴				講義
4	1)思春期の健康課題 ①月経に関する健康指導 ②性教育				講義・グループワーク
5	成熟期女性の特徴				講義
6	1)成熟期女性の健康課題 ①女性に特有の癌				講義・グループワーク
7	更年期・老年期の特徴				講義
8	1)更年期・老年期の健康課題 ①更年期障害 ②骨粗鬆症			事後レポート:配点10点	講義・グループワーク
9	リプロダクティブヘルス／ライツとは			事前レポート:配点10点	講義
10	家族計画と受胎調整指導に関して				講義
11	人工妊娠中絶と看護				講義
12	1)性感染症とその予防 2)性的暴力を受けた女性に対する看護				講義
13	不妊治療を受ける家族の看護				講義
14	国際化社会と看護			事後レポート:配点10点	講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論 :医学書院				
参考書・資料等	国民衛生の動向 :一般財団法人 厚生労働統計協会				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、レポート(30点)、筆記試験(70点)				
関連科目	母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学方法論Ⅲ 母性看護学実習				
学生へのメッセージ	女性の一生を通じた母性の健康の保持増進を目指し セルフケアを高める支援を軸に、次世代の健全育成を目指す看護の在りかたを学びます。				

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	母性看護学方法論Ⅱ 正常妊娠・産褥・新生児 演習					
講師名	峯 愛子			実務経験	専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期における看護について理解する。 妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期における必要な援助技術を習得する。					
到達目標						
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等		授業方法
1	妊娠期の看護 妊娠期の精神的社会的特性 妊婦と胎児のアセスメント					講義
2	妊婦と家族の看護(ビデオ:レオポルド・腹囲・子宮底判定) 妊娠各期の胎児の発育・妊婦のマイナートラブルへの指導			ビデオ		講義
3	分娩気における看護 分娩の三要素					講義
4	分娩の経過(ビデオ:分娩の回旋 演習動画:胎児回旋)			ビデオ・動画		講義
5	産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と家族の看護					講義
6	分娩気看護の実際(演習動画:子宮収縮・授乳)			動画		講義
7	産褥期における看護 産褥の身体的・精神的・社会的変化 褥婦のアセスメント					講義
8	褥婦と家族の看護(ビデオ:子宮復古・乳房管理) 施設退院後の看護(演習動画:子宮収縮・授乳)			ビデオ・動画		講義
9	新生児における看護 新生児の生理					講義
10	胎児のアセスメント					講義
11	新生児の看護(ビデオ:新生児期の判定・診察・原子反射) (演習動画:新生児計測と診断・原子反射)			ビデオ・動画		講義
12	学内実習 レオポルド触診 腹囲・子宮底の測定					演習
13	新生児の体重測定・計測 沐浴					演習
14	リフレクション					演習
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論 :医学書院					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	母性看護学方法論Ⅲ 周産期の異常、異常新生児、看護過程				
講師名	①吉原伸恵 ②			実務経験	①助産師 ②専任教師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的	健康問題のある妊娠期・分娩期・産褥期・早期新生児期にある看護について理解する。 周産期における対象の特徴を理解し、科学的思考に基づき看護過程の展開ができる。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	① 周産期異常	ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症 ハイリスク妊娠の影響因子、妊娠期の感染症について			講義
2		ハイリスク妊娠の看護 高年妊婦、老年妊婦、肥満過剰体重増加妊婦、ART後の妊婦、合併症を有する妊婦、切迫流早産の妊婦、妊娠高血圧症候群の妊婦の看護			講義
3		妊娠期の健康問題に対する看護、 多胎妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、妊娠悪阻、貧血 分娩期の健康問題に対する看護 前期破水、遷延分娩、胎児機能不全			講義
4		分娩期の健康問題に対する看護 胎児機能不全、帝王切開術、分娩時異常出血			講義
5	① 新生児・産褥の異常と看護	新生児の異常と看護 新生児仮死、特有の疾患(呼吸器系)、新生児蘇生法アルゴリズム分娩外傷、低出生体重児 低出生体重児の看護、高ビリルビン血症、ビタミンK欠乏症			講義
6					
7		産褥の異常と看護 異常のある褥婦の看護			講義
8	② 看護過程	ウェルネス志向とは ウェルネス志向と問題思考の違い、ウェルネス志向で考える			講義 グループワーク
9		アセスメントの視点 褥婦のアセスメントの考え方・視点、ウェルネス志向での事例の問題抽出			講義 グループワーク
10		事例・情報の整理 情報の整理、分類			講義
11		事例・看護問題の抽出 情報の整理、看護問題の抽出			講義
12		事例・看護計画立案 看護問題優先順位決定、目標設定、看護計画立案			講義
13		事例・看護問題の整理 看護計画立案、看護問題の整理、ウェルネス視点で考えられているか			講義
14		事例・新生児アセスメント 情報の整理、アセスメントの視点			講義
15	テスト				講義
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学1 母性看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 :医学書院				
参考書・資料等	看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 :メヂカルフレンド				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ	周産期の A1:K32 異常、異常新生児 吉原伸恵				

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	精神看護学概論 保健				
講師名	柴田 久仁子			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	精神保健の基本と保持・増進に向けた看護について理解する。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	精神医療の歴史と現状 精神保健医療の変遷と今日の課題 精神保健医療に関する法制度 精神に障害がある人の生活を刺させる法制度				講義
2	こころの働きと発達 心の構造・脳の構造と働き 精神発達理論				講義
3	ストレスと適応 現代社会とストレス・ストレスとストレス反応 精神保健における予防概念 心的外傷の及ぼす影響				講義
4	対象理解と精神保健看護の役割 精神保健看護の対象 障害・心の健康の理解 精神保健看護の役割と機能				講義
5	地域移行・生活支援の基礎 地域移行・地域生活支援の必要性 地域移行・地域生活支援の基礎				講義
6	地域移行支援の展開				講義
7	地域生活支援の展開 現状・本人・看護師が心得ておくこと 他 生活支援の場面 ―事例を通して―				講義
8	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 :医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 :医学書院				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100 点)				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	精神看護学方法論Ⅰ 精神障害者の看護 ・ 症状別看護 ・ 検査				
講師名	WAGON 講師			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的	精神看護の対象の理解や支援のための概念を理解する。 精神疾患・障害がある者の人権と安全を守り、回復を支援する看護について理解する。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	1 精神看護学の基礎知識 2 精神看護の対象の理解と支援のための概念 脳の仕組みと精神機能、患者－看護師関係(コミュニケーション技術)、精神疾患患者のとりえ方				講義
2	セルフケアを支える看護 オレム・アンダーウッド				講義
3	生きる力と強さに着目した援助 リカバリー、エンパワーメント、レジリエンス、ストレングス、ストレス脆弱性モデル				講義
4	1 リエゾン精神看護とその活動 2 看護師における感情労働とメンタルヘルス				講義
5	精神疾患・障害がある患者への看護 精神科の主な症状				講義
6	精神科で行なわれる治療と合併症の看護 精神科における身体ケア 身体にあらわれる心の痛み、薬物療法における看護、電気けいれん療法の看護、身体合併症				
7	精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理 (1)安全管理				講義
8	(2)病棟環境の整備 (3)離院 (4)隔離・身体拘束 (5)CVPPP				
9	1 入院から社会生活の継続までの看護 (1)急性期の看護 (医療観察法医療、精神科救急と看護を含む)				
10	(2)急性期～回復期の移行期における看護 (3)慢性期の看護				講義
11	(4)退院後の生活支援 2 精神科におけるリハビリテーション SST ・ 認知行動療法 レクリエーション療法				
12	地域精神保健活動の概要 精神障害者の生活課題、地域における社会資源の活用と調整				講義
13	ケアする家族への支援 (1)精神障害の家族への影響 (2)家族への支援				講義
14	災害時の精神看護 (1)災害とストレス (2)災害時の精神保健医療活動の基本 災害派遣精神医療チーム(DPAT) (3)被災した精神障害者への支援				講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 :医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 :医学書院				
参考書・資料等	はじめての精神科看護 :メディカ出版				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野					令和7年度	
授業科目名		精神看護学方法論Ⅱ 疾患、プロセスレコード				
講師名		小山富士見台病院 医師 ⑤加藤 美名子		実務経験	①～④医師 ⑤専任教員	
単位数		1 単位	授業回数	15 回	時間数 30 時間	
履修年度		2025 年度	学年	2 年次	履修期 前期	
学習目的		精神看護の対象の理解や支援のための概念を理解する。 精神疾患・障害がある者の人権と安全を守り、回復を支援する看護について理解する。				
到達目標						
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	疾 患	総論 精神医療の展望			講義	
2		統合失調症 症状、治療など			講義	
3		気分障害 うつ病・躁うつ病 各論 症状、治療など			講義	
4		神経症性障害 神経症圏の疾患 各論 ストレス関連障害および身体表現性障害			講義	
5		器質性精神障害など 認知症・薬物依存・てんかんなど			講義	
6		薬物療法・電気けいれん療法など			講義	
7		摂食障害・睡眠障害 各論			講義	
8		精神療法 各論			講義	
9		環境療法・社会療法			講義	
10		発達障害・知的障害 各論			講義	
11	プ ロ セ ス レ コ ー ド	プロセスレコードとは プロセスレコードの活用・記載方法			講義	
12		プロセスレコードを書いてみよう① 精神看護とコミュニケーション・精神看護のケアとは			講義	
13		プロセスレコードを書いてみよう② 分析と解釈			講義	
14		プロセスレコードの振り返り プロセスレコード検討会			発表会 ディスカッション	
15	テスト					
教科書		系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 :医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 :医学書院				
参考書・資料等						
評価指標		出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100 点)				
関連科目						
学生への メッセージ		【疾患】 基本的な事項から臨床的なことまで、幅広く講義します。				

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	精神看護学方法論Ⅲ 疾患の看護、看護過程				
講師名	加藤 美名子			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期
学習目的	精神疾患・障害のある人の諸問題を看護の視点からアプローチし、回復・自立に向けての看護の多職種との連携を理解する。 精神の疾患・障害がある人の事例の看護過程の展開を理解する。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	精神看護の基本① 援助の基本 ・ 患者 ―看護師関係の成立―				講義
2	精神看護の基本② 回復を助ける ・ 患者の安全を守る				講義
3	精神疾患を抱える方の看護 対象理解とアセスメント ・ アセスメントツール作成				講義
4	精神疾患特有の症状と援助① 興奮 ・ 抑うつ ・ 躁 ・ 幻覚・妄想 ・ 不安 ・ 無為・自閉 ・ 拒絶				講義
5	精神疾患特有の症状と援助② 水中毒 ・ 希死念慮 ・ 自殺企図 ・ アセスメントツール作成				講義
6	ストレス関連障害・身体表現 性障害のある患者の看護① パニック障害(DVD視聴) ・ パーソナリティ障害			DVD	講義
7	精神作用物質使用による精神行動の障害のある患者の看護 アルコール依存症患者の看護(DVD視聴)			DVD	講義
8	ストレス関連障害・身体表現 性障害のある患者の看護② 摂食障害 ・ 解離性障害 ・ PTSDの看護				講義
9	気分障害のある患者の看護 単極性・双極性障害患者の看護				講義
10	統合失調症患者の看護 急性期～回復期 社会復帰への経過に応じた看護(DVD視聴)			DVD	講義
11	退院を目指した統合失調症患者の看護(看護過程) 事例患者の3側面について考える				講義
12	退院に向けたサポート体制を考える(個人課題)				講義
13	退院を目指した統合失調症患者の看護(看護過程) 事例患者の①つか月後の退院に無K田看護援助を考える(グループワーク)				グループワーク
14					グループワーク
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 :医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 :医学書院				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野					令和 7 年度
授業科目名	看護の統合と実践 I 感染管理、医療安全				
講師名	①竹内 美絵子 ②明石 香澄			実務経験	看護師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期
学習目的	医療安全のマネジメントについて理解する。 医療事故の構造を人間の行動特性から理解する。 看護を安全に提供するために必要な事故防止策を組織的・個人的な取りくみに分けて理解する。 医療場面における事故の特徴と発生要因について理解する。 感染症の管理について理解する。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	感染管理	感染とは 感染の分類 流行性ウイルス感染症と予防接種			講義
2		結核について			講義
3		手指衛生、個人防護具の着用			講義
4		呼吸器、咳エチケット、患者配置、環境整備 リネン管理、安全な注射手技、感染性廃棄物の取り扱い			講義
5	医療安全	医療安全の概論 事故防止のためコミュニケーション			講義
6		コミュニケーションツール(チームステップス) エゴグラムを実際行なってみる			講義
7		過失とは 看護事故の構造 看護事故防止の考え方			講義
8		注射、輸血、内服与薬、経管栄養 それぞれの危険と要因			講義
9		転倒・転落(排泄行動によるもの、それ以外のもの)			講義
10		KYT 事例 グループワークし発表 摂食、嚥下障害、入浴中の事故について			講義
11		血液、体液媒介感染 抗がん剤の曝露防止 放射線被爆 ラテックスアレルギー			講義
12		院内暴力について 院内暴力のKYT グループワークし、発表			講義
13		チューブトラブルについて(中心静脈ライン、器官チューブドレーン) 身体抑制について			講義
14		患者間違い、多重課題、タイムプレッシャー 業務途中の中断、ヒヤリハット			講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 看護管理 :医学書院				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(感染管理:30 点/医療安全:70 点)				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	看護の統合と実践Ⅱ 看護管理 ・ 多重課題看護 他				
講師名	①宮脇 健 ②中村優里			実務経験	①看護師 ②専任教員
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	3年次	履修期	後期
学習目的	看護におけるマネジメントについて理解する。 複数患者の事例展開と多重課題について理解し、看護の知識を統合し活用できる。				
到達目標	患者の状態や状況に合せた援助について考え臨床判断能力・看護実践能力を養うことができる				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	看護管理	看護とマネジメント 看護管理学とは		パソコン	講義演習
2		看護ケアのマネジメント 安全管理・医療事故・院内感染対策		パソコン	講義演習
3		看護ケアのマネジメント チーム医療		パソコン	講義演習
4		看護サービスのマネジメント 組織として看護サービスをマネジメントする		パソコン	講義
5		マネジメントに必要な知識と技術 看護を取り巻く諸制度		パソコン	講義
6		試験		筆記	
7	多重課題看護他	複数患者の事例展開 優先順位の判断、援助の優先順位を判断する		事例学習・実習記録・アクションシート	講義演習
8		複合的な状況にある対象の看護の状況を判断し、危険を回避する		事例学習・実習記録・アクションシート	
9		複合的な状況にある対象の看護の状況や援助の優先順位を判断する		事例・情報収集	
10		複合的な状況にある対象の看護の状況を判断し、援助の優先順位を判断し、援助の実践		新市民病院実習 G: 演習 古河総合病院 G: 課題レポート作成	演習
11					
12				古河総合病院 G: 演習 新市民病院実習 G: 課題レポート作成	
13					
14		学びの会		実習チーム	発表会
15					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 看護学概論 : 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践1 看護管理 : 医学書院				
参考書・資料等	医療安全ワークブック: 医学書院				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験、課題レポートの提出 評価は、「看護管理:40 点(筆記試験)」、「多重課題看護他:60 点(課題レポートの提出)」				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	看護の統合と実践Ⅲ 災害看護、国際看護				
講師名	①高橋克聡 ②市村健二		実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	3 年次	履修期	後期
学習目的	看護におけるマネジメントについて理解する。 複数患者の事例展開と多重課題について理解し、看護の知識を統合し活用できる。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	災害看護	災害医療・看護とは 救急医療と災害医療の違い、災害サイクル、災害看護の特徴、対象を知る			講義
2		防災、災害援助活動、システム、災害時の看護師の役割			講義
3		災害看護 災害サイクルと看護、災害現場での看護の役割			講義
4		発災から出動迄の看護、災害急性期の看護の役割			講義
5		災害時におけるトリアージとその重要性、 実際の災害現場でも活動できる知識技術の習得			講義
6		三角巾による包帯法 災害現場で身の回りの物を使って物品作成			講義
7		トリアージの実際 トリアージ(START 法)の実習			講義
8	国際看護	世界と日本の動向 世界の健康問題、異文化の理解、国際協力			講義
9		国際協力のしくみ プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション、国際協力機関について			講義
10		国際協力機関 ジャパン・ハート、JICA、ODA、NGOの活動 国際看護の実際① 発展途上国の活動についての現状			講義
11		国際看護の実際② 外国人に対する看護、世界の貧困と健康問題、地域住民への健康問題 同僚が外国人だった場合の対応、PPCAサイクル法			講義
12		国際看護の実際③ 水と保健衛生、発展途上国の健康問題 下痢・エイズ・マラリアの症状と対策			講義
13		国際看護の実際④ 女性のリプロダクティブヘルス エイズ・マラリア・結核に対する対策と治療、看護			講義
14		在日外国人に対する看護活動 対応を一緒に考えてゆく			講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 :医学書院				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(災害看護:50 点/国際看護:50 点)				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	看護の統合と実践Ⅳ 看護研究				
講師名	梶原 絢子			実務経験	看護師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	3 年次	履修期	後期
学習目的	看護における研究の必要性やプロセスを理解する。 看護研究の発表ができる				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	1. 看護研究の意義 ①看護研究とは何か？ ②看護研究の必要性 2. 看護過程と看護研究の違い ①ケース報告とケーススタディ ②事例報告と事例研究 3. 文献検索について ①文献検索と文献検討の違い ②一次文献と二次文献について 4. グループワークについて				講義
2	5. グループの持ち方 ①グループメンバーの役割分担と活動 6. 看護研究の進め方 ①問題提起から研究成立へ ②研究テーマの絞り込み				講義
3	③研究計画書の作成方法 テーマの絞り込みから研究目的を設定する				講義 グループワーク
4	④研究計画書の作成方法 ・データ収集の方法と研究の具体的準備 ・アンケートの作り方 ④依頼書の書き方				講義 グループワーク
5	・データ収集の方法と準備				講義 グループワーク
6	⑤実施後のデータ整理				講義 グループワーク
7	7. 研究論文・抄録の書き方 ①論文・抄録の構成方法 ②研究目的、仮説、研究内容、考察、結論の書き方、パワーポイント				講義 グループワーク
8	・研究結果、考察、結論のまとめ方 ・引用文献、参考文献のまとめ方				講義 グループワーク
9	・実態調査のまとめ方と研究方法、内容の書き方 ・考察、結論の抄録の書き方アプローチ				講義 グループワーク
10					
11					
12	・評価の仕方の説明 ・抄録を仕上げる				講義 グループワーク
13	8. 研究発表会の仕方 ・発表の司会の仕方と発表会の進め方・抄録の完成				発表会
14	・評価の方法				
15					
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 :医学書院				
参考書・資料等	必要に応じて資料を配布				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					